

やる気に乏しい生徒たち

目次

本報告書の要約	2
はじめに	4
第Ⅰ章 中学生の心のうち	
1. どんな中学生なのか	8
2. 中学生たちの願い	14
3. しあわせに思うとき	18
第Ⅱ章 やる気の有無	
1. やる気があるほうか	22
2. やる気のでるとき	24
3. 相談にのってほしい人	29
第Ⅲ章 社会的な達成	
1. 成績との関係	35
2. 今、しあわせか	41
3. どんな仕事につきたいか	45
4. おとなになってからの生活	50
第Ⅳ章 やる気と努力	
1. 尊敬する人物	55
2. 頭のよさとは	58
3. 努力の意味	60
資料1 調査票見本	66
資料2 学年・性別集計表	81

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。



本報告書の要約

静岡大学教授

深谷昌志

① 望んでいること

中学生たちが、もっとも望んでいるのは、成績をよくすることで、よい高校への進学を望んでいる生徒も多い。(P.15図6)

② 望んでいることの学年別の変化

学年が上がるにつれて、部活動でがんばろうとする子がへり、ゆっくり寝たり、のんびりと好きな音楽を聴くのをあこがれる生徒がふえる。(P.16図7)

③ しあわせなとき

もっともしあわせなのは、おいしい食事を食べているとき(第2位)でも、おもしろいテレビを見たとき(第3位)でもなく、テストでよい点数がとれたときだという。(P.20図9)

④ やる気があるほうか

やる気があるかの問いに「とても」の9.9%を含めて、「かなり」あると思える生徒は24.1%と4分の1にとどまっている。(P.23表6)

⑤ がんばったら入学できるか

東大や京大などへは、どんなにがんばっても入れそうもないと思う生徒が48.2%と半数に達する。しかも、そうした傾向は学年が上がるにつれて強まる。(P.39図18、P.40図19)

⑥ 将来の仕事

つきたいと思えばつける仕事は「ふつうのサラリーマン」や「スーパーのレジ係」「花屋」などで、むずかしい仕事につけないだろうという。(P.48表22)

⑦ 将来の達成とやる気

将来、重役以上になれると思っている生徒は25.1%である(P.50図28)。しかし、やる気のある生徒がそう思う割合は46.1%で、やる気のない生徒の18.4%の2.5倍の割合に達する。(P.50図29)

⑧ ビッグな目標への達成

ほとんどの中学生は、ビッグな目標への達成はとても無理と考えている(P.54図33)。それだけに、中学生たちはやる気のなさを感じるのであろう。

⑨ どうしてそうなれたか

タレントなどは才能の問題だが、進学や成績のよさなどは「一生懸命に努力したから」だという。(P.60表28、P.61図37)

まとめ

生徒たちは全体として、やる気に乏しい。望みの高校や大学へ入れそうもないくらいだから、社会的な達成はとてもむずかしいという。努力することの大切さはわかっているが、なんとなく努力できないと思っている生徒が多い。

【調査概要】

対象●山口、広島、徳島、栃木、鳥取、大阪、
東京の中学1・2・3年生
期間●1990年6月～7月
方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル構成

(人)

	男子	女子	計
中1	558	494	1,052
中2	354	339	693
中3	396	394	790
計	1,308	1,227	2,535

❖ はじめに ❖

意欲に乏しい子どもたち

1990年に、小学生を対象とした国際比較調査を試みた。その結果は、東京と岡山で国際シンポジウムの形で発表し、多くの専門家の声を聞くことができた。「都市環境の中の子どもたち」(「小学生ナウ」vol.10-9)がその結果を要約したもので、くわしいデータは同レポートを利用してほしい。

この調査の中で、日本の子どもの傾向としてもっとも目についたのは、子どもたちの意欲の乏しさだった。

具体例をあげてみよう。図1は子どもたちに、将来どういう生活を送れそうなのかをたずねた結果を示している。

ロスやオークランドの子どもたちは、「有名になる」はむずかしいかもしれないが、6割くらいはなんとかなりそうだし、仕事面で成功する可能性は9割を超えるし、しあわせな家庭はほぼ間違いなく作れると思っている。そしてバンコクの子も、有名になるのはむずかしいとしても、その他の面では未来に明るい見通しを抱いている。

そうした中で、東京の子どもは仕事の面での成功についても、「なんとかなりそう」を含めて6割にとどまり、全体として未来に閉ざされた感じを抱いている。

どうして東京の子どもたちの未来への見通しが暗いのか。そうした東京の子どもで目につくのは、成績が下位になるにつれて、将来が暗く閉ざされていると思う態度であろう。表1は、そうした背景を考えようとして作成したもので、B/Aに着目すると、ロスやオー

クランドの子のB/Aは4分の3以上の数値を示している。

つまり、ロスやオークランドでは成績が悪くとも、将来については成績のよい子と同じような明るい見通しを持っているのに対し、日本の子の場合、成績が不振な子が望みを抱く割合は、成績のよい子の3~4割にとどまっている。

このように、アメリカなどの子どもは学業成績の良し悪しは将来に影響を及ぼさないと考えている。しかし、東京の子どもたちは学業成績は決定的な影響を及ぼすと感じているのはすでにふれた通りである。

なお、「勉強が得意な子はなぜ得意なのか」をたずねた結果を表2に示したが、どの地域の子も、「先生の話聞くから」と答えている。それと同時に、アメリカなどの子どもたちが、「頭がいいから」と、いわば才能の差を認めているのが注目をひく。

それに対し、東京やソウルの子は才能の差を低く評価し、学習努力がよい成績をもたらすと、努力する態度を大事にしている。才能の開きなどは少ない。どの子どもでもがんばればなんとかかなるという努力至上主義的な考え方である。

こうした場合、成績がよければ努力が報われたと思える。しかし成績が不振ぎみになると、努力不足を感じて、自己像が縮小していく。東京の子どもたちが未来に夢を抱かないのも、そうした学業成績の意味が重すぎることから生ずるものなのかもしれない。

そうした傾向はつきたい仕事についてたずねた表3にも認められる。この表は仕事につ

きたい割合を示しているが、ほとんどすべての項目で、つきたい割合がもっとも高いのがロス、次いでオークランド、3位にバンコク、もっとも数値の低いのが東京となる。

そして東京の子のなりたさが、他の都市なみなのは、下位の2項目、つまり、マンガ家と小学校教師くらいにとどまっている。

このように、国際的に見たとき、日本の子どもたちは未来が閉ざされたと感じ、意欲を喪失している割合が高い。それでは、そうした傾向が中学生になるとどう変わるのか。中学生を対象として、やる気のあり、なしを考えていこうとしたのが、以下の調査である。

図1 将来の見通し

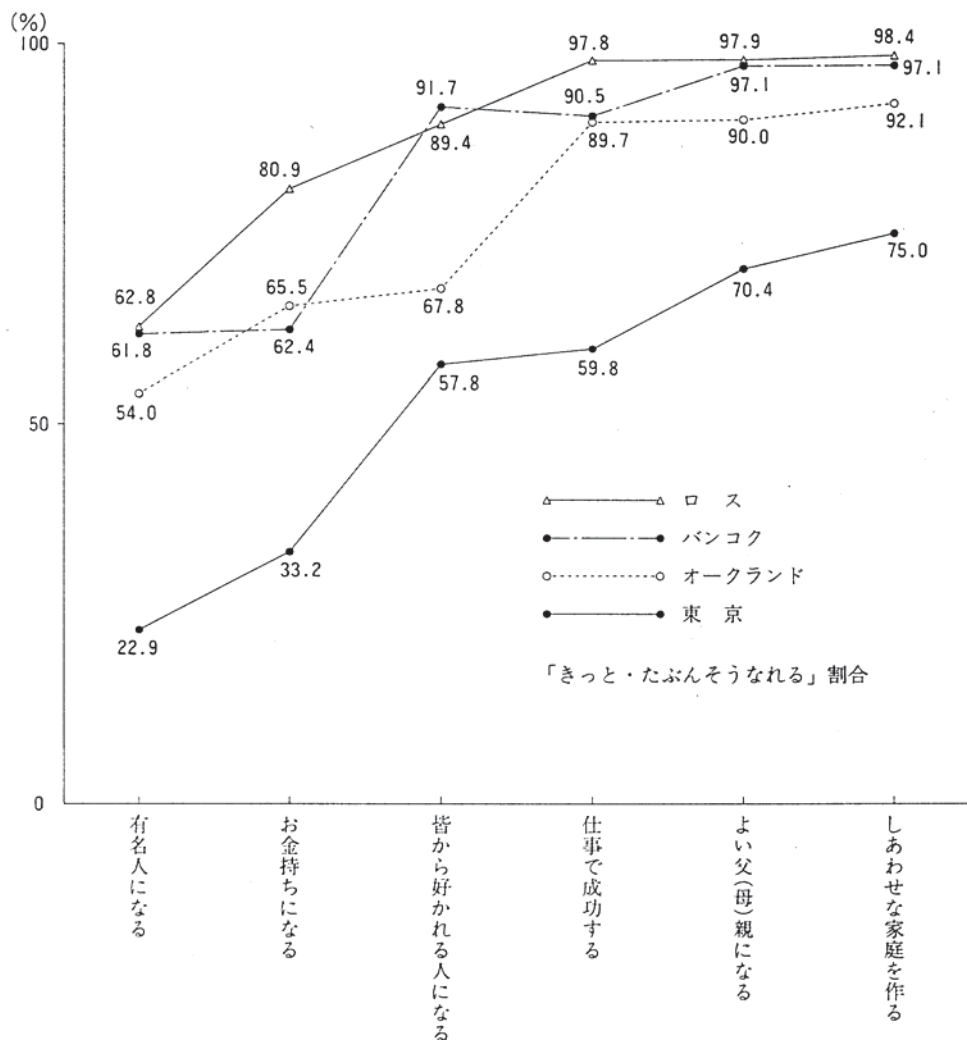


表1 将来の見通し×成績

(%)

		よ い		ふつう	よくない(B)	B/A
		とても(A)	かなり			
仕事で成功する人	東 京	55.6	33.7	18.2	17.3	31.1
	バンコク	40.0	34.6	26.8	18.2	45.5
	ロ ス	80.0	70.1	64.8	61.5	76.9
	オークランド	76.6	63.2	50.0	67.6	88.3
しあわせな家庭	東 京	67.3	55.4	37.4	28.7	42.6
	バンコク	60.0	60.8	55.5	50.0	83.3
	ロ ス	91.3	87.4	84.8	83.1	91.0
	オークランド	84.5	77.1	75.6	78.8	93.3

「きっとそうなる」割合

表2 勉強が得意な理由

(%)

	ソウル	バンコク	タイペイ	東 京	ロ ス
先生の話聞くから	74.9	74.4	70.0	66.8	57.0
家で勉強するから	42.6	71.0	44.1	37.4	48.7
頭がいいから	25.6	61.2	22.1	33.9	52.0

「とてもそう思う」割合

表3 つきたい仕事

(%)

	東 京	ロ ス	オークランド	バンコク
裁判官	6.5	34.8	25.4	16.9
大学教授	7.5	11.2	9.6	21.4
医者	10.0	47.1	20.2	42.3
芸術家	12.2	37.5	33.3	23.0
デザイナー	17.3	27.9	26.3	20.7
マンガ家	19.4	14.1	15.7	14.2
小学校教師	28.1	27.9	23.7	27.9

「つきたい」割合

第 I 章 中学生の心のうち



1. どんな中学生なのか

本号では、中学生たちの意欲を問題にしようとしている。その前に、生徒たちが自分自身をどう感じているのかを紹介すると、図1の通りとなる。

「予習や復習をがんばっている」とはいえないし、「先生から信頼されている」とも思えないが、「親との関係がうまくいっている」という。

そして、自己評価を学年別に集計してみると、学年が上がるにつれて、自分に自信を持つ生徒が減少している(表1)。

さらに、「あなたはどのようなタイプの生徒なのか」については図2の通りだが、「とても」「かなり」そう思うが5割、あるいは、

「あまり」「ぜんぜん」そう思わないが、5割を超える項目を抜き取ってみると、以下のようになる。

1. 健康に恵まれている (54.9%)
2. 友だちから嫌われているとは思っていない (51.9%)
3. 先生から信頼されているとは思っていない (58.9%)

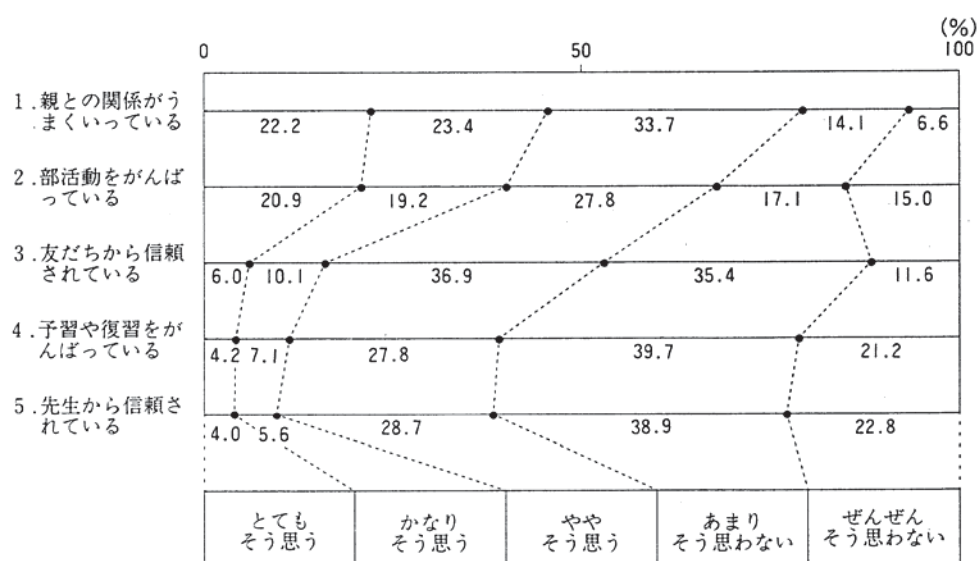
したがって、友だちに好かれ、健康的というのであるから、全体としては健全な自己像のように思われるが、これを性別にクロスさせてみると、健康に自信があるのが女子、そして友だちの多いのが男子という傾向をうかがうことができる(図3)。

また、自分のタイプについての自己評価を学年別にクロスさせてみると、図4のようなプロフィールとなる。中1から中3へ学年が上がるにつれて、健康や友だちづきあいに自信を持つ中学生の割合が減少する。それとは対照的に「自分を駄目な人間だと思う」生徒が、中1の36.1%から中2の42.8%、中3の44.2%（「とても」「かなり」そう思う割合）

と増加していく。さらに、「人の役に立たない人間のような」についても、30.6%（中1）から38.9%（中3）へ急増する（表2）。

学年が上がるにつれて、中学生たちの自信がどうして失われていくのか。本来なら学年が上がると、中学生として自信を持つのが望ましい成長のスタイルのはずだが、残念ながら表2のような結果となる。

（図1）どんな中学生か

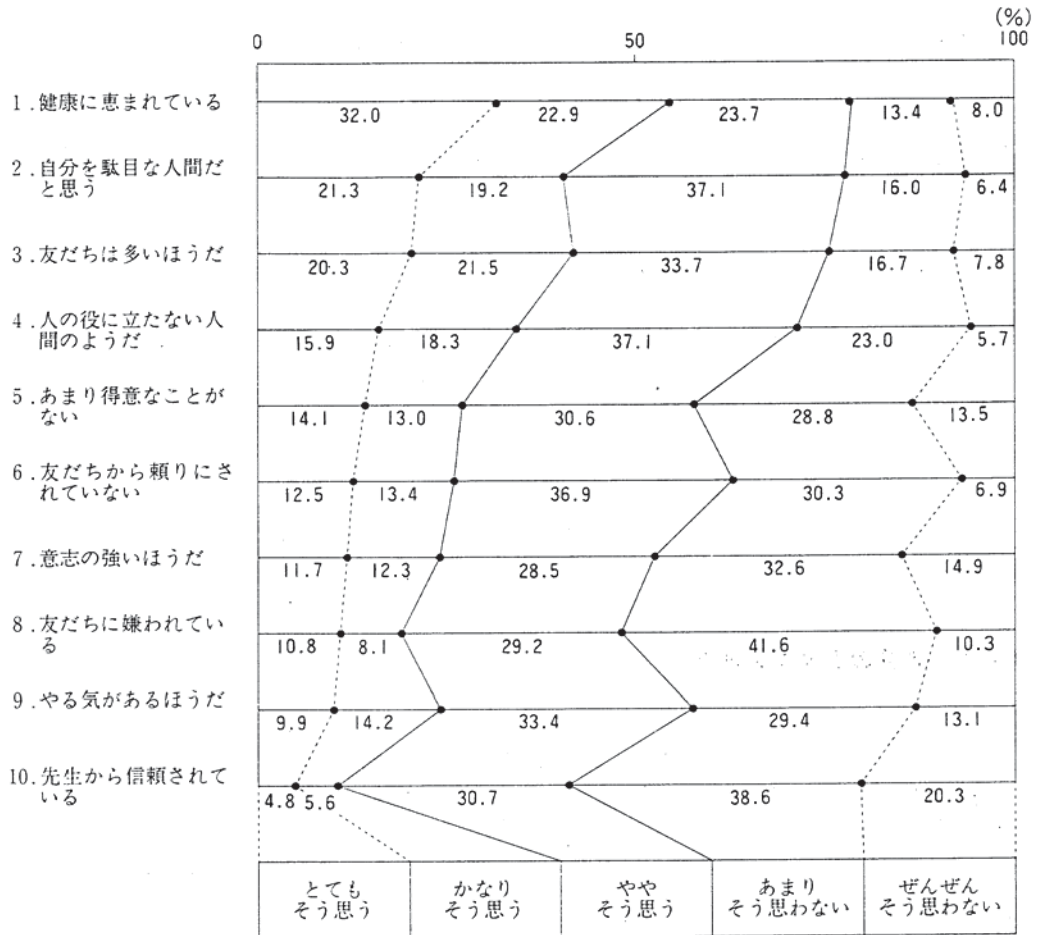


(表1) どんな中学生か×学年

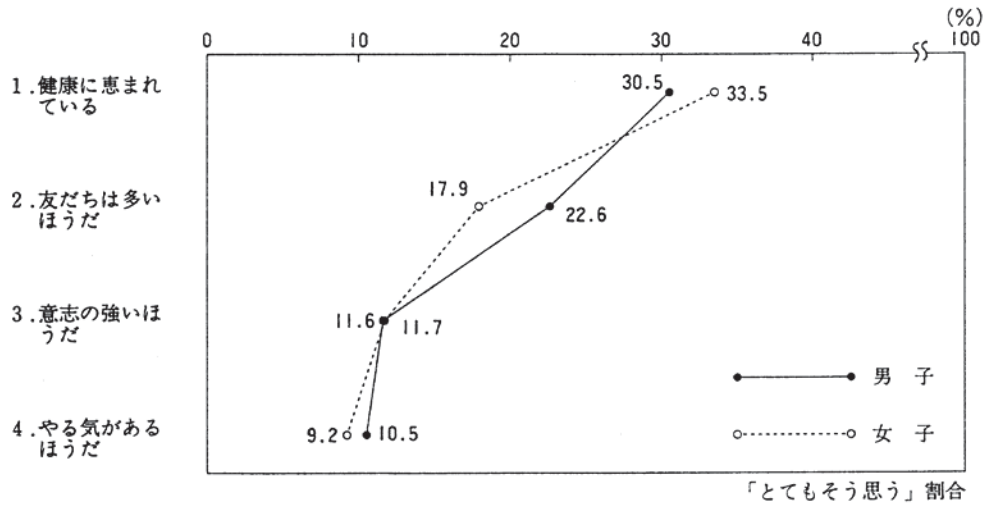
(%)

		中 1	中 2	中 3
親との関係がうまくいっている	とても	21.7	25.5	20.0
	かなり	25.3	21.9	22.2
	小 計	47.0	= 47.4	> 42.2
部活動がんばっている	とても	23.6	19.7	18.4
	かなり	22.3	17.4	16.6
	小 計	45.9	> 37.1	> 35.0
友だちから信頼されている	とても	6.7	5.4	5.6
	かなり	11.2	9.6	9.1
	小 計	17.9	> 15.0	= 14.7
予習や復習をがんばっている	とても	5.9	3.6	2.4
	かなり	10.7	5.5	4.0
	小 計	16.6	> 9.1	> 6.4
先生から信頼されている	とても	4.9	3.9	2.9
	かなり	5.7	6.1	5.0
	小 計	10.6	= 10.0	> 7.9

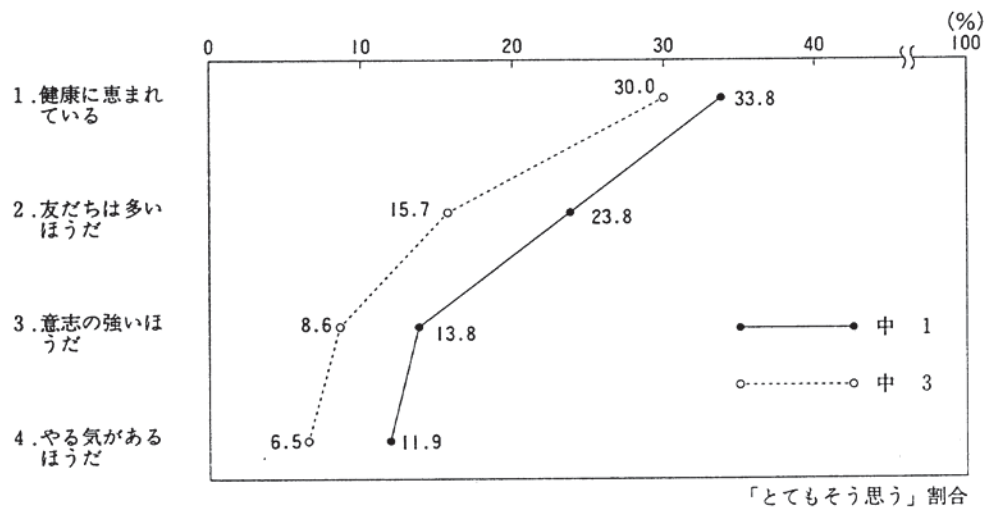
(図2) 自分のタイプ



(図3) 自分のタイプ×性



(図4) 自分のタイプ×学年



(表2) 自分のタイプ×学年

(%)

	中 1		中 2		中 3	
健康に恵まれている	33.8	21.1	31.6	23.3	30.0	24.8
	54.9		54.9		54.8	
自分を駄目な人間だ と思う	18.2	17.9	22.2	20.6	24.5	19.7
	36.1		<	42.8	<	44.2
友だちは多いほうだ	23.8	22.6	20.3	21.8	15.7	19.9
	46.4		>	42.1	>	35.6
人の役に立たない人 間のようにだ	14.3	16.3	16.0	18.2	18.0	20.9
	30.6		<	34.2	<	38.9
あまり得意なことが ない	14.4	11.1	12.6	14.7	14.9	14.1
	25.5		<	27.3	<	29.0
友だちから頼りにさ れていない	12.7	12.1	11.4	14.8	13.4	13.8
	24.8		<	26.2	<	27.2
意志の強いほうだ	13.8	11.8	11.9	12.8	8.6	12.4
	25.6		>	24.7	>	21.0
友だちに嫌われている	11.6	8.2	10.1	9.2	10.3	7.1
	19.8		19.3		17.4	
やる気があるほうだ	11.9	15.6	10.5	13.0	6.5	13.3
	27.5		>	23.5	>	19.8
先生から信頼されて いる	5.4	6.3	4.7	4.8	4.1	5.1
	11.7		>	9.5	9.2	

とても かなり
そう思う

2. 中学生たちの願い

平凡だがなんとなく意欲に乏しい中学生の姿がうかんでくるが、生徒たちはふだん、どうしているかについて尋ねると、図5のようなプロフィールとなる。

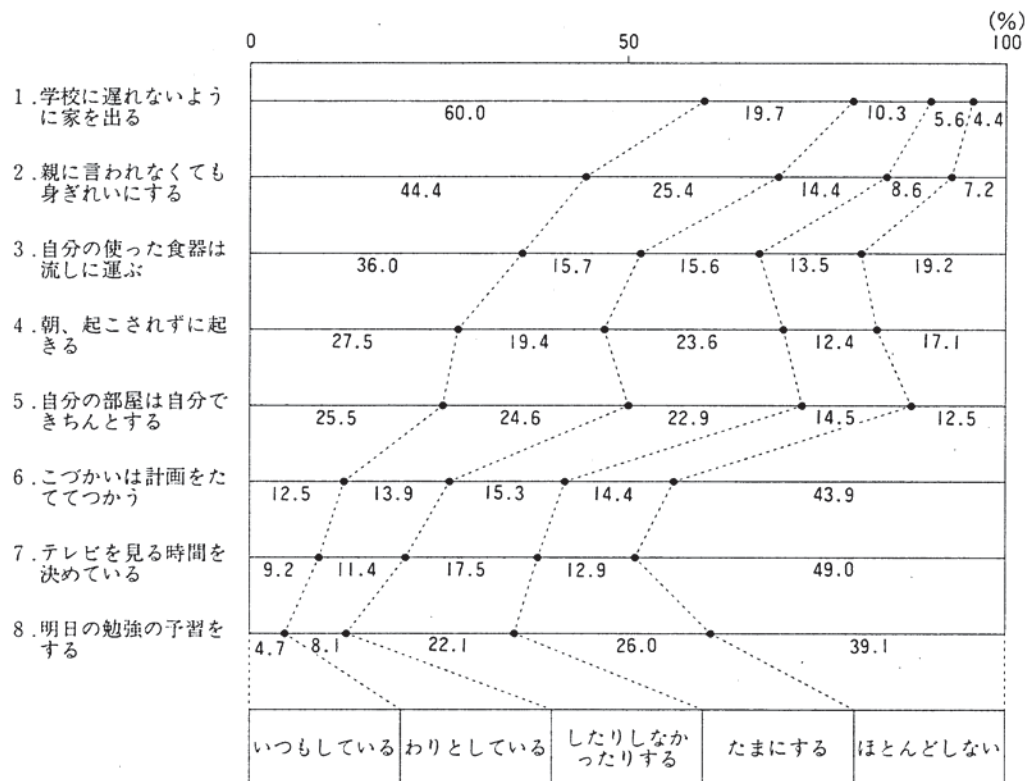
生徒たちによると、「親に言われなくても身ぎれいにする」や「学校に遅れないように家を出る」などはしているが、「明日の勉強の予習」はあまりしていないという。

それでは中学生たちは、何を望みとして生

活しているのだろうか。図6に目を通してほしい。図が示すように、中学生たちの願いの4位までを占めたのは以下の項目だった。

1. 成績をもっとよくしたい 93.1% (76.6%)
 2. スポーツがうまくなりたい 85.8% (65.6%)
 3. よい高校に進学したい 85.7% (65.3%)
 4. ゆっくり寝たい 84.8% (64.1%)
- とても+かなりそう思う(とてもそう思う)

(図5) いつもしているか

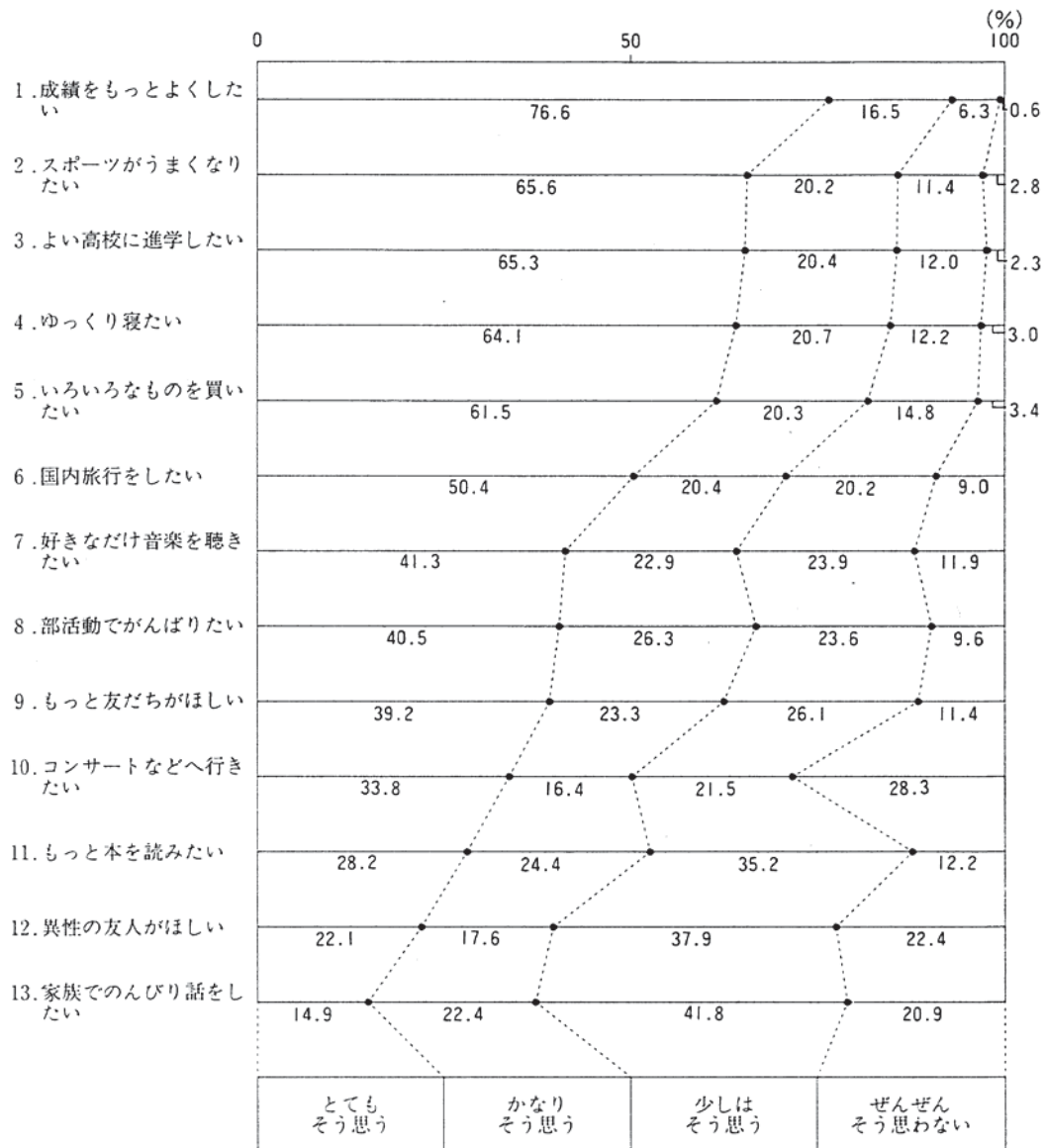


スポーツがうまくなりたいを除くと、中学生たちは、よい成績をとってよい高校に入りたいが、この頃、勉強に疲れ、ゆっくり寝たいと思っているという。中学生の頃から疲れきっている感じで、中学生のデータとは信じられない気持ちがある。

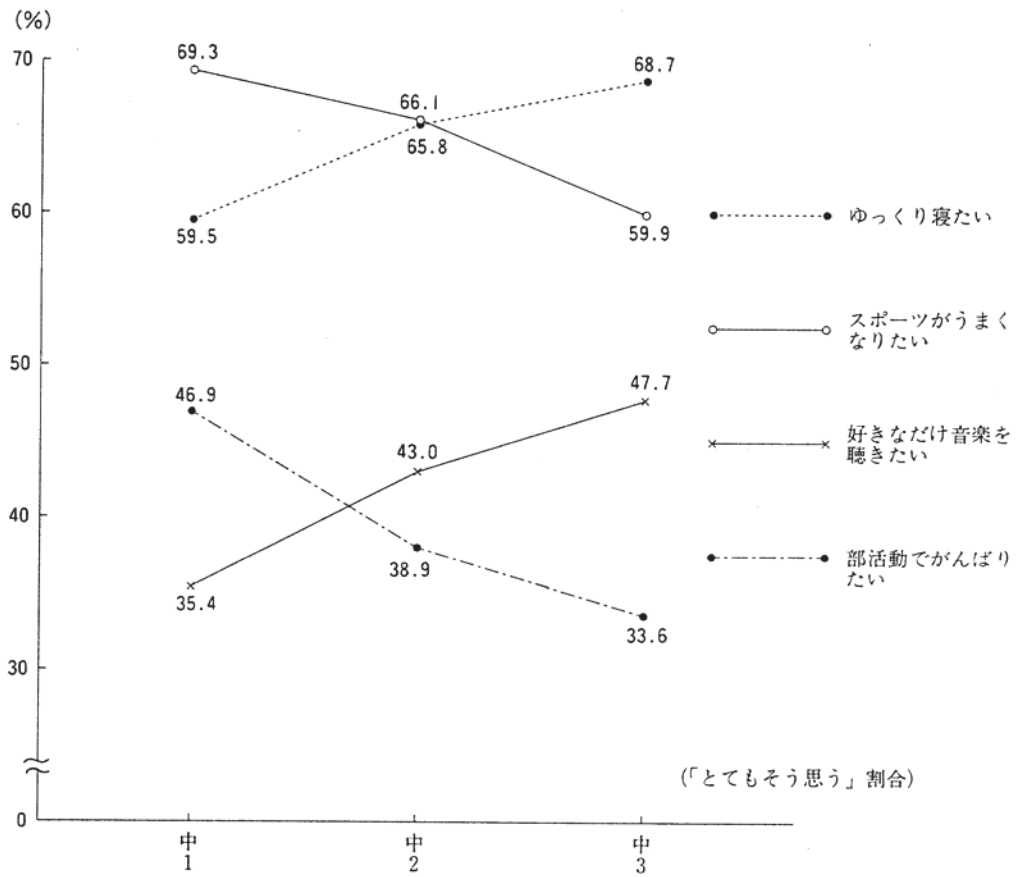
しかも図7(表3)のように、学年が上がるにつれて中学生の気持ちは、以下のように変化していく。

減少するもの { スポーツがうまくなりたい
部活動でがんばりたい
増加するもの { ゆっくり寝たい
好きなだけ音楽を聴きたい
比率が高く変わらないもの { 成績をもっとよくしたい
よい高校に進学したい
したがって、中1から中3へ学年が上がるにつれて、生徒たちが活気を失い、疲れきった感じになるのがわかる。

(図6) 望んでいること



(図7) 望んでいること×学年



(表3) 望んでいること×属性

(%)

	学 年			性 別	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
成績をもっとよくしたい	75.5	75.0	79.6	76.2	77.1
スポーツがうまくなりたい	69.3 >	66.1 >	59.9	66.0	65.1
よい高校に進学したい	67.2	64.7	63.5	67.1 >	63.5
ゆっくり寝たい	59.5 <	65.8 <	68.7	65.5 >	62.6
いろいろなものを買いたい	58.8	63.2	63.6	58.3 <	65.0
国内旅行をしたい	50.5	50.0	50.9	50.3	50.6
好きなだけ音楽を聴きたい	35.4 <	43.0 <	47.7	34.5 <	48.5
部活動でがんばりたい	46.9 >	38.9 >	33.6	40.6	40.6
もっと友だちがほしい	42.2 >	40.0 >	34.4	35.2 <	43.4
コンサートなどへ行きたい	29.8 <	32.3 <	40.3	23.6 <	44.6
もっと本を読みたい	28.0	27.1	29.7	24.4 <	32.3
異性の友人がほしい	17.8 <	26.3	24.1	22.5	21.6
家族でのんびり話をしたい	16.3 >	15.2 >	12.9	12.9 <	17.1

「とてもそう思う」割合

3. しあわせに思うとき

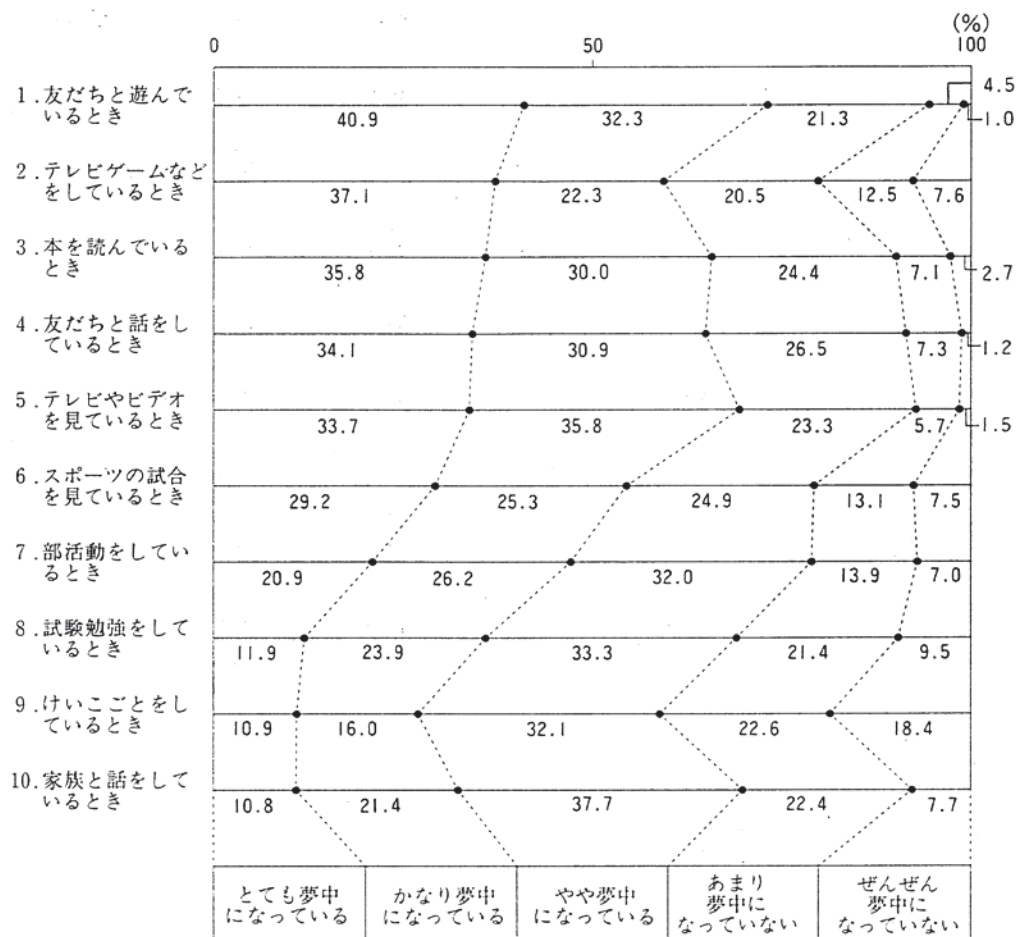
このようにトータルとしてみると、中学生たちの疲れた感じがうかんでくるが、そうした中学生が夢中になっているのは図8に示したように、「友だちと遊んでいるとき」「テレビゲームなどをしているとき」「本を読んでいるとき」だという。

さすがに中学生らしく、友だちと遊んでい

るのが楽しいという反応だが、そうした楽しさが、学年が上がるにつれて減少している(表4)。

高校受験は中学生にとってストレスのきわめて高いものなのであろう。このように、いろいろなデータを分析しても、それぞれの角度から受験の影がうかび上がってくる。

(図8) 夢中になっているとき



それでは生徒たちは、どういうときにしあわせと感じているのか。図9によれば、もっともしあわせなのは「テストでよい点数をとったとき」であり、次いで「おいしい食事」、そして「おもしろいテレビ」、さらに「友だちと話しているとき」と続く。

中学生にとってもっともうれしいのが、「テストでよい点数をとったとき」というのはわかるような気がする反面、なんとなくわびしい感じがする。

そして表5によれば、しあわせなときの学年別の特徴を拾いだすと、以下ようになる。

- 中1 { テストでよい点数がとれた
先生にほめられた
- 中2 { 友だちとゆっくり話をした
のんびりマンガを見る
- 中3 { 1人でぼんやり過ごす
のんびりお風呂に入る

中学生たちが積極的に生きようとする姿を失い、現実を逃避してぼんやりする生活にあこがれるようになっていく。いわば、学年が上がるにつれて高校受験の影が重くのしかかって、やる気が失われていくのが中学生という感じである。

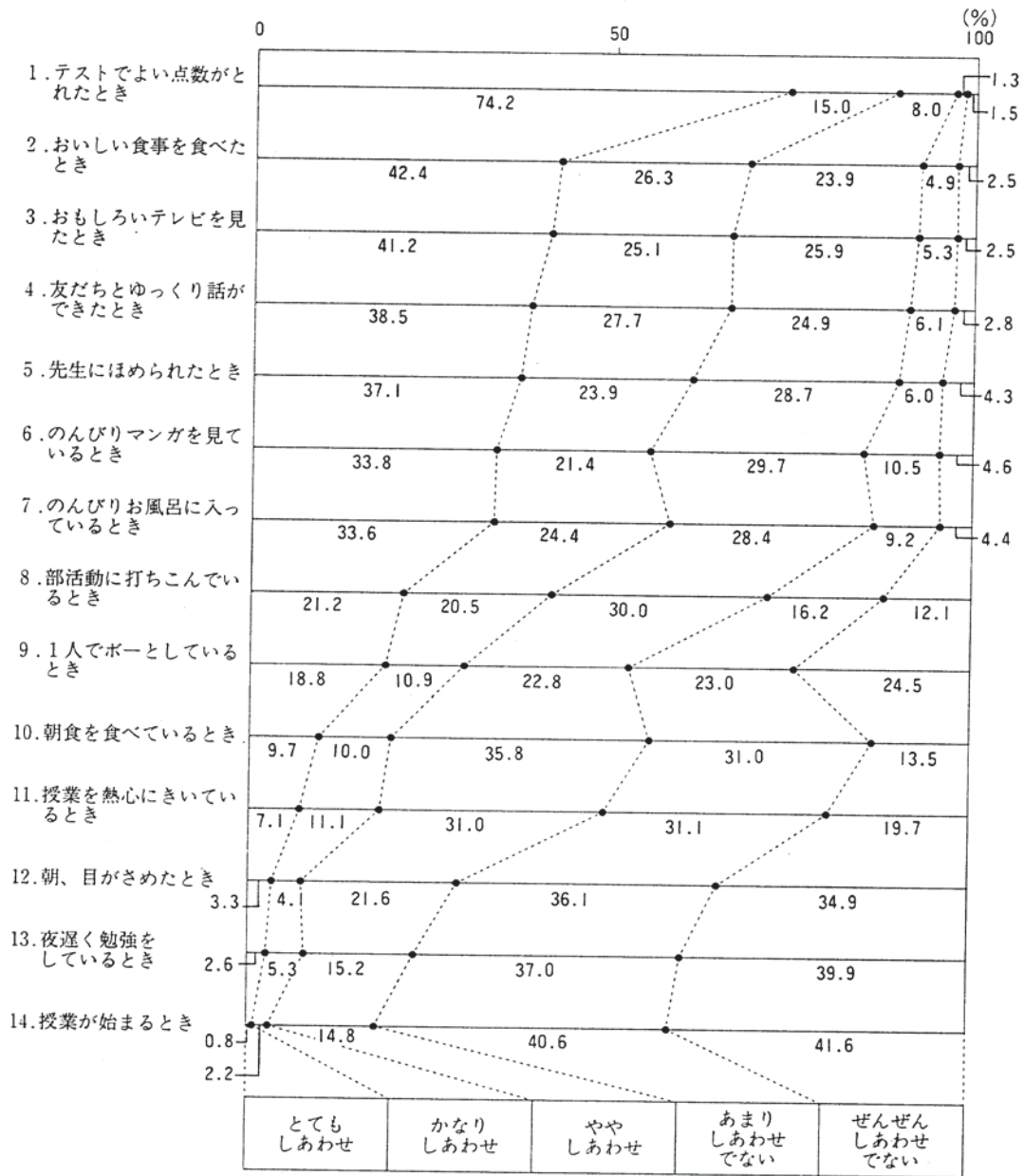
(表4) 夢中になっているとき×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
友だちと遊んでいるとき	42.0	43.6	> 37.0	43.0	> 38.6
テレビゲームなどをしているとき	38.5	41.5	> 31.5	46.2	> 27.3
本を読んでいるとき	32.5	< 39.9	36.4	30.5	< 41.2
友だちと話をしているとき	33.8	35.4	33.4	26.9	< 41.8
テレビやビデオを見ているとき	31.6	< 35.4	35.1	33.4	34.1
スポーツの試合を見ているとき	29.9	30.6	26.9	30.8	27.5
部活動をしているとき	24.2	> 18.3	18.6	23.2	> 18.3
試験勉強をしているとき	13.8	12.0	> 9.3	11.8	12.1
けいごごとをしているとき	12.5	11.6	8.2	9.1	13.0
家族と話をしているとき	12.4	12.2	> 7.2	9.0	12.6

「とても夢中になっている」割合

(図9) 「しあわせ」と思うとき



(表5) 「しあわせ」と思うとき×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
テストでよい点数がとれたとき	77.6	> 75.5	> 68.8	73.4	75.3
おいしい食事を食べたとき	44.3	41.0	41.3	42.0	42.9
おもしろいテレビを見たとき	40.7	41.8	41.1	41.4	40.8
友だちとゆっくり話 ができたとき	38.4	< 40.5	> 36.7	28.3	< 49.4
先生にほめられたとき	45.6	> 35.5	> 27.2	34.6	< 39.7
のんびりマンガを見 ているとき	31.6	< 38.1	> 33.2	30.3	< 37.7
のんびりお風呂に入 っているとき	32.0	32.8	< 36.5	28.4	39.2
部活動に打ちこんで いるとき	26.9	> 18.4	> 16.2	22.6	19.7
1人でボーとしている とき	14.7	< 19.5	< 23.4	16.0	< 21.7
朝食を食べているとき	11.9	> 9.0	> 7.5	11.3	8.0
授業を熱心にきいて いるとき	7.2	7.4	6.7	8.2	> 5.9
朝、目がさめたとき	3.6	> 2.7	< 3.3	4.0	2.5
夜遅く勉強をしてい るとき	2.4	2.5	3.2	2.9	2.3
授業が始まる時	0.5	1.2	1.0	1.1	0.6

「とてもしあわせ」の割合

第II章 やる気の有無



1. やる気があるほうか

第I章でふれてきた結果を視野に入れると、中学生たちのやる気があまりないように思われるが、改めて中学生のやる気を尋ねると、表6の通りとなる。「ややある」が3分の1、やる気がないと思っている者が4割、やる気に自信のある者が4分の1弱という割合である。

全体としてみると、生徒たちがやる気に自信を持ってないのがわかるが、これを自己評価に関連させると表7のような結果が得られる。当然のことかもしれないが、表中の

数値が示すように、「友だちから信頼されている」、あるいは「部活動がんばっている」と思える者が自分のやる気に自信を抱いている。

また、表8によれば、やる気が「とてもある」と思っている者の中で、成績上位層の者が11.0%を占めるが、やる気を失うにつれて成績が下位の者の割合が増す。

勉強がよくできれば、自分の将来に望みを持てる。そうだとすれば、そうした生徒がやる気に自信が持てるようになるのは当然のようにも考えられる。

(表6) やる気のあるほうか

(%)

		そう思う			そう思わない	
		とても	かなり	やや	あまり	ぜんぜん
学 年	中1	11.9 ∨	15.6	32.2 ∧	27.8	12.5
	中2	10.5 ∨	13.0	33.7 ∧	29.3	13.5
	中3	6.5	13.3	35.3	31.4	13.5
性	男子	10.5	13.6	34.3	26.6	15.0
	女子	9.2	14.8	32.7	32.3	11.0
全 体		9.9	14.2	33.4	29.4	13.1

(表7) どんな中学生×やる気

(%)

		とてもある	かなりある	ややある	あまりない
親との関係がうまく いっている	とても	45.9	> 28.6	20.2	15.3
	かなり	15.0	33.1	26.7	20.9
	小 計	60.9	61.7	> 46.9	> 36.2
部活動がんばっ ている	とても	49.2	31.9	15.5	12.9
	かなり	17.2	26.4	22.8	16.7
	小 計	66.4	> 58.3	> 38.3	> 29.6
友だちから信頼さ れている	とても	20.7	6.2	3.0	3.0
	かなり	14.6	19.0	9.3	6.9
	小 計	35.3	> 25.2	> 12.3	> 9.9
予習や復習をが んばっている	とても	17.1	4.5	2.4	1.1
	かなり	12.6	13.0	7.1	3.7
	小 計	29.7	> 17.5	> 9.5	> 4.8
先生から信頼され ている	とても	16.3	3.1	1.4	1.8
	かなり	8.6	14.2	5.2	2.5
	小 計	24.9	> 17.3	> 6.6	> 4.3

(表8) 成績×やる気

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
とてもある	11.0	17.5	30.8	23.6	17.1
かなりある	4.0	26.9	34.4	24.4	10.3
ややある	2.5	19.1	41.3	27.3	9.8
あまりない	1.2	14.0	37.4	30.9	16.5

2. やる気のでるとき

これらのデータを読んでいると、やる気が漠然と育つのではなく、自分についての自信をベースにして、やる気が育っているのがわかる。

それならば生徒たちがやる気のでるのは、どういときなのか。図10、表9、表10と合わせて解釈すると、以下のようになる。

やる気
 であるのは

- 部活動で試合に出られたとき
- (特に中1)
- 成績が上がったとき
- (特に成績上位層)

中1の生徒は部活動の試合に出られたときにやる気のでるらしいが、中2から中3になるにつれ、そうした気持ちが薄れていく。しかも全体としてみると、学年が上がるにしたがって自分に自信がなくなっていくせい、生徒たちのやる気のでるときがへり、やる気

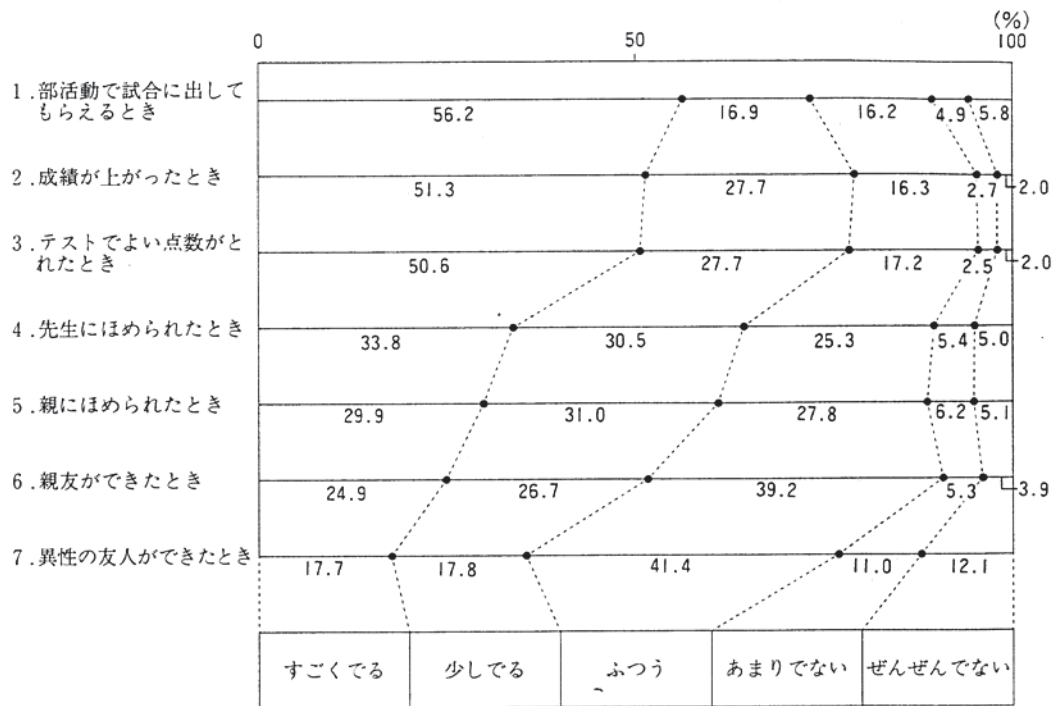
が薄れていく。

やる気のある生徒は表11のように、何か折がある度にやる気のでる。しかし、やる気の乏しい生徒はそうした体験を持っていないせいか、いろいろな場面があってもやる気のでにくいと答えている。

それに反し、やる気がなくなるのはどんなときなのか。図11によると、「やる気なくなるか」について、それほどシャープな結果が得られていない。やる気を持っている機会が少ないだけに、やる気なくなるといわれてもピンとこないのかもしれない。

なお、やる気なくなる割合を属性別にクロスさせた結果を表12にまとめたが、これもこれまでのクロスのようなシャープな結果が得られていない。

(図10) やる気がでるとき



(表9) やる気がでるとき×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
部活動で試合に出してもらえるとき	66.2	54.4	44.7	55.4	57.0
成績が上がったとき	56.8	49.8	45.5	49.8	52.7
テストでよい点数がとれたとき	55.1	49.9	45.5	48.8	52.4
先生にほめられたとき	41.9	30.8	25.7	30.7	37.1
親にほめられたとき	37.6	29.8	20.1	26.4	33.6
親友ができたとき	28.8	23.9	20.9	21.3	28.7
異性の友人ができたとき	14.5	22.3	18.0	18.9	16.4

(やる気が)「すごくでる」割合

(表10) やる気がでるとき×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
部活動で試合に出してもらえるとき	67.9	> 58.7	58.7	54.2	48.2
成績が上がったとき	(58.1)	> 54.8	> 52.8	> 50.2	> 45.0
テストでよい点数がとれたとき	(60.5)	> 54.1	> 51.6	> 50.4	> 43.8
先生にほめられたとき	47.7	33.6	36.2	31.0	30.5
親にほめられたとき	40.7	> 28.7	32.3	27.7	28.1
親友ができたとき	(40.0)	> 27.2	> 24.5	> 22.9	24.2
異性の友人ができたとき	34.9	> 14.2	18.0	16.8	19.7

(やる気が)「すごくでる」割合

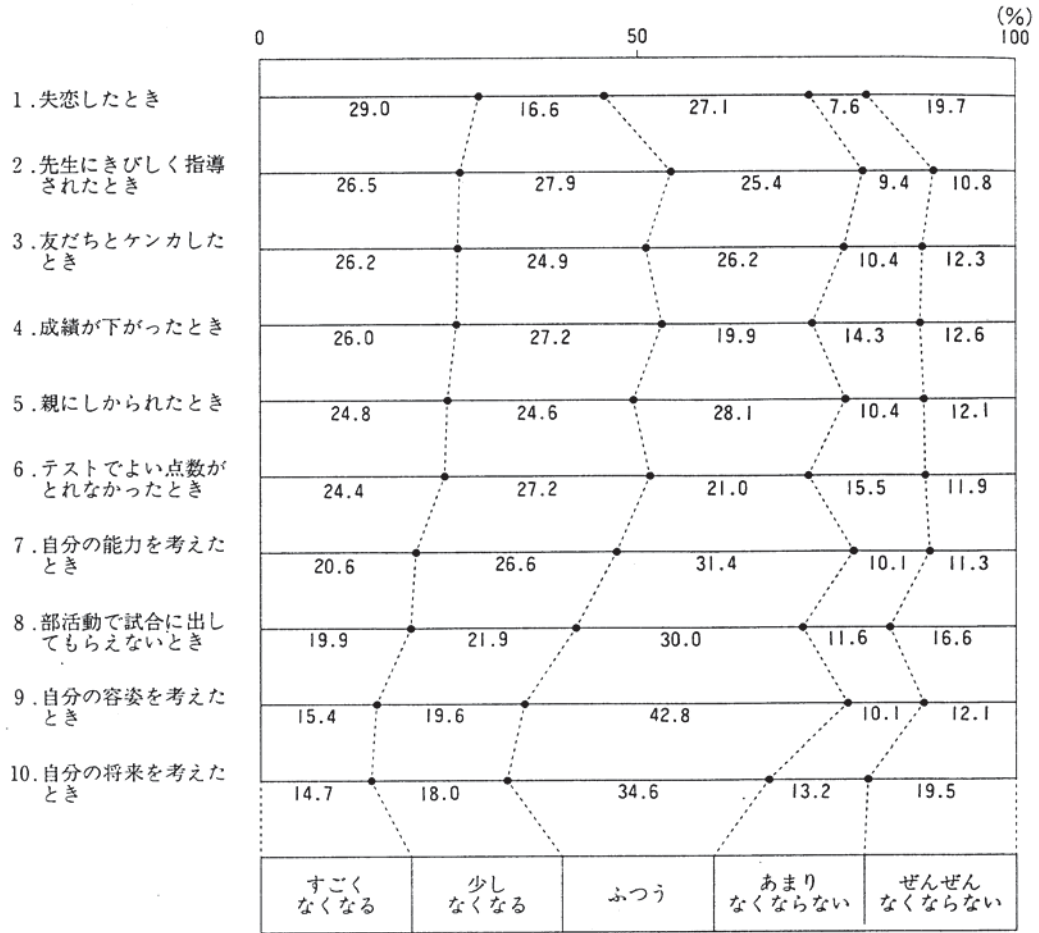
(表11) やる気がでるとき×やる気

(%)

	やる気がある	ややある	あまりない	ぜんぜんない
部活動で試合に出してもらえるとき	(74.6)	> 70.5	> 56.5	> 49.0
成績が上がったとき	(70.0)	> 60.7	> 53.6	> 42.7
テストでよい点数がとれたとき	(69.5)	> 59.5	> 51.7	> 43.3
先生にほめられたとき	(53.5)	> 44.2	> 32.4	> 28.1
親にほめられたとき	53.3	> 38.6	> 26.1	26.6
親友ができたとき	(41.3)	> 28.6	> 23.4	> 21.0
異性の友人ができたとき	(32.5)	> 18.8	> 15.4	> 13.4

(やる気が)「すごくでる」割合

(図11) やる気がなくなるとき



(表12) やる気がなくなるとき×属性

(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
失恋したとき	23.4	< 37.4 >	28.6	23.3	< 34.6
先生にきびしく指導されたとき	26.4	28.9	24.5	24.1	< 29.1
友だちとケンカしたとき	26.2	27.7	25.0	18.6	< 34.4
成績が下がったとき	25.5	27.9	24.8	26.4	25.5
親にしかられたとき	27.0	> 23.7	22.9	22.9	26.9
テストでよい点数がとれなかったとき	23.1	25.0	25.5	25.6	23.1
自分の能力を考えたとき	18.7	19.4	< 24.1	20.1	21.1
部活動で試合に出してもらえないとき	21.0	17.9	20.1	19.1	20.7
自分の容姿を考えたとき	14.1	< 15.3	< 17.1	12.5	< 18.5
自分の将来を考えたとき	13.5	14.0	< 17.0	14.7	14.7

「すごくなくなる」割合

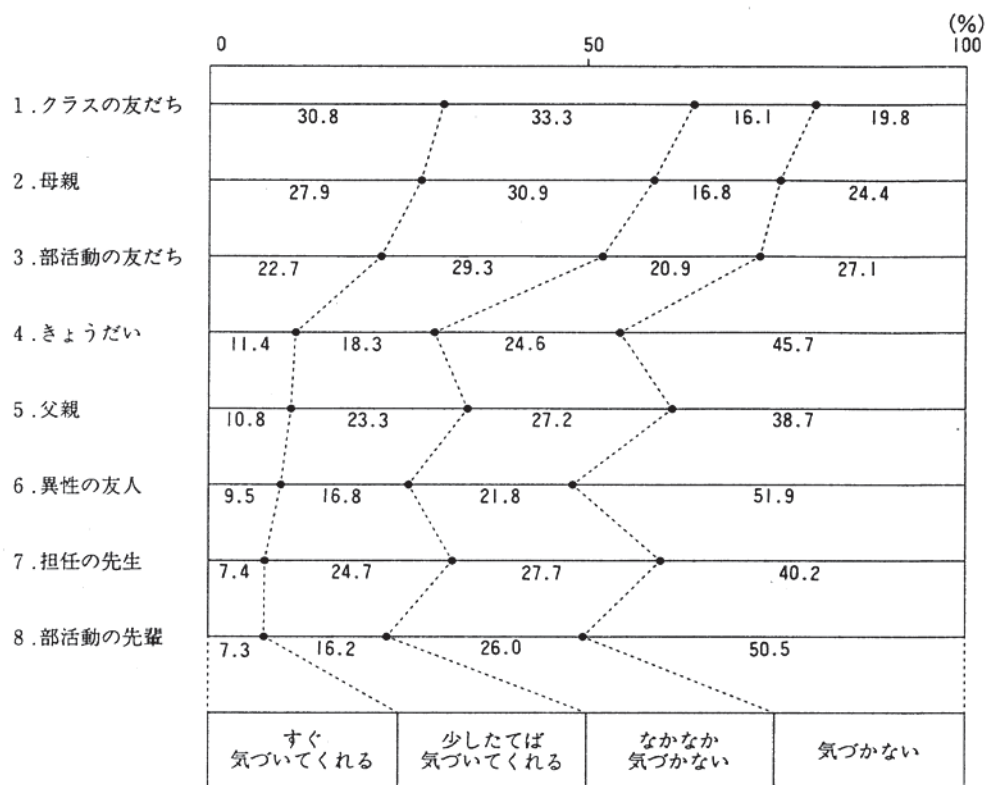
3. 相談にのってほしい人

それでは生徒たちは、何かに落ち込んだときに気づいてくれるのは誰と思っているのか。図12によれば、気づいてくれるのはクラスの友だちか母親だろうという。身近にいる

人たちなのであるから、そういう人たちが気づいてくれる人としてあがってくるのは当然なのであろう。

また、落ち込んだときに話を聞いてほしい

(図12) 落ち込んでいるとき気づいてくれる人



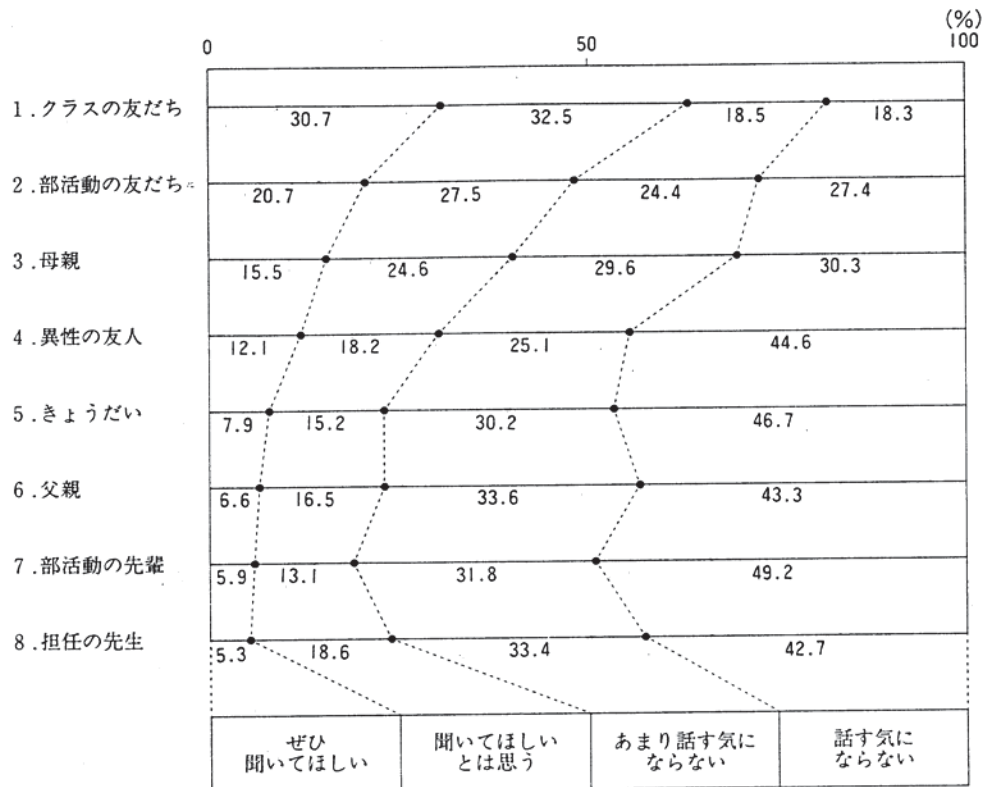
人については、これも予想された通り、クラスの友だちや部活動の友だちが上位にあがってくる(図13)。そして図13の8項目から1項目を選ばせる設問では、クラスの友だちが第1位にあがっている(表13)。

親に話を聞いてもらうのも悪くはないが、なんといっても友だちに話をしたいし、話を聞いてほしいというのが中学生の心のうちのように思える。

そこで、落ち込んだときに気づいてくれた人と、話を聞いてほしい人とを比較した形でまとめてみると図14のようなプロフィールとなる。全体としてプロフィールは一致しているが、母親は気づいてくれることが多いらしい。なお、気づいてくれる人についてのクロス集計を表14に示した。

このように、生徒たちが悩みを聞いてほしい人として友だちと母親をあげているが、こ

(図13) 落ち込んでいるとき話を聞いてほしい人



れを学年別にみると図15のように、相談したい相手が母親からクラスの友だちへ変化しているのがわかる。中学生ともなれば、おとなの仲間入りをするので、母親から友だちへ、頼りにする対象が変化してくるのは当然のように思える。

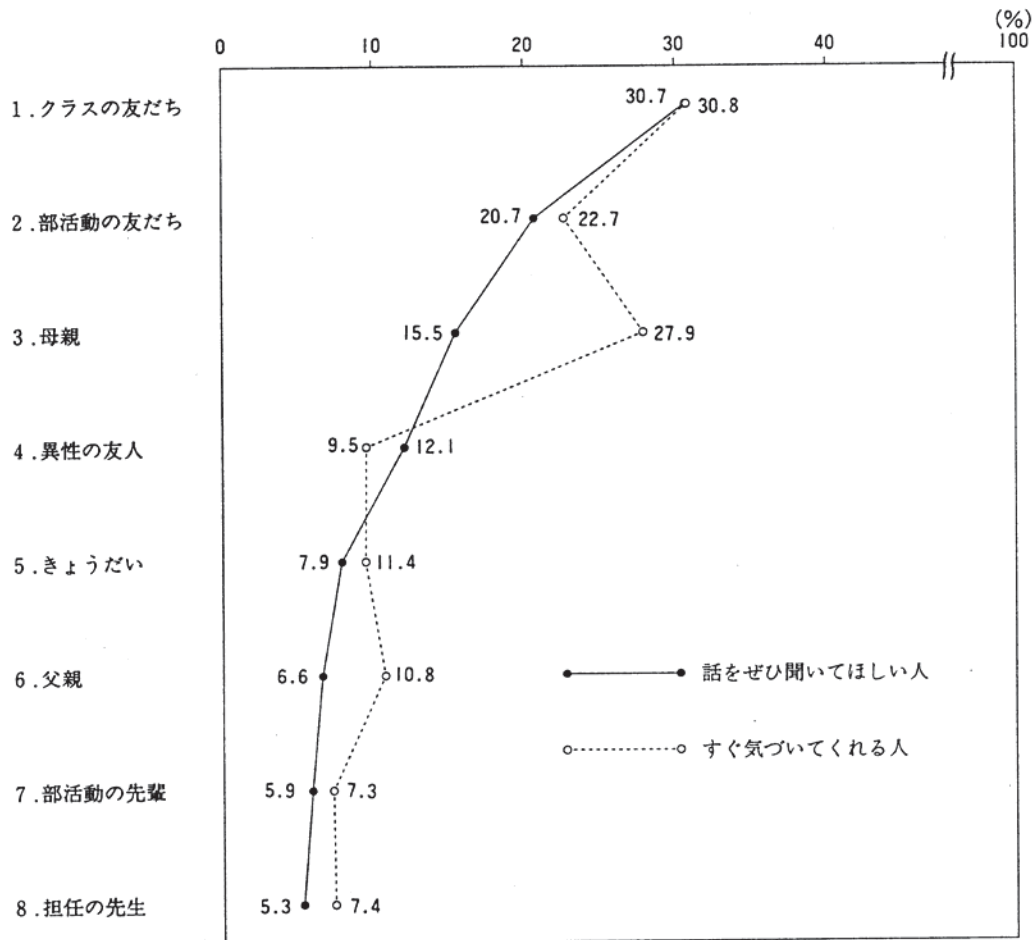
なお、話を聞いてほしい人が成績によって

異なるかを表15に示したが、ほとんど有意の差を見いだせなかった。勉強が得意、苦手を越えて、もっとも頼れるのは友だちというのは共通している。また、話を聞いてほしい人とやる気との関係についても表16のように、有意の差をほとんど見いだせなかった。

(表13) いちばん話を聞いてほしい人

順位	いちばん話を聞いてほしい人	%
1	クラスの友だち	40.2
2	母親	20.8
3	部活動の友だち	11.8
4	異性の友人	8.9
5	父親	7.7
6	きょうだい	6.1
7	担任の先生	2.9
8	部活動の先輩	1.6

(図14) 落ち込んでいるとき話を聞いてほしい人・気づいてくれる人



(表14) 落ち込んでいるとき気づいてくれる人×属性

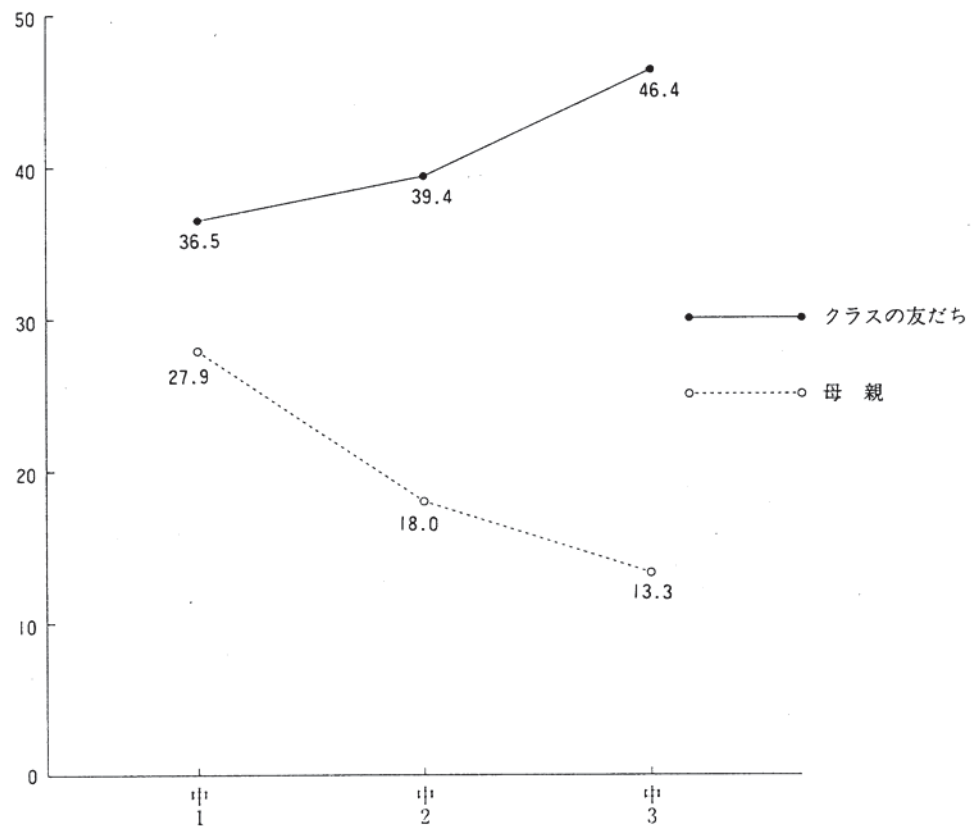
(%)

	学 年			性	
	中 1	中 2	中 3	男 子	女 子
クラスの友だち	28.4	33.6	> 31.4	19.1	42.9
母親	32.4	> 29.0	> 20.9	23.7	< 32.3
部活動の友だち	18.6	< 26.4	> 24.9	14.4	< 31.6
きょうだい	13.4	> 11.3	> 8.8	8.5	< 14.5
父親	12.6	> 11.8	> 7.4	11.4	10.1
異性の友人	7.9	< 13.9	7.7	10.0	8.9
担任の先生	8.5	6.9	6.5	8.7	6.1
部活動の先輩	8.5	9.4	3.8	6.3	8.5

「すぐ気づいてくれる」割合

(図15) いちばん話を聞いてほしい人×学年

(%)



(表15) いちばん話を聞いてほしい人×成績

(%)

	クラスの友だち	部活動の友だち	母親	父親	きょうだい
上	40.3	11.3	19.4	9.7	4.8
中の上	39.6	13.3	24.0	7.4	5.1
中	40.6	11.6	22.9	7.1	6.2
中の下	40.1	11.4	16.5	9.2	6.5
下	41.3	9.7	19.1	6.7	6.7
全体	40.2	11.8	20.8	7.7	6.1

(表16) いちばん話を聞いてほしい人×やる気

(%)

	クラスの友だち	部活動の友だち	母親	父親	きょうだい
とてもある	39.0	10.0	19.0	8.5	6.5
ややある	33.7	12.7	25.5	7.5	7.5
あまりない	40.0	13.0	21.4	7.3	7.3
ぜんぜんない	43.6	11.3	19.9	8.0	8.0
全体	40.2	11.8	20.8	7.7	6.1

第Ⅲ章 社会的な達成



1. 成績との関係

やる気とはいうまでもなく、将来との関係の中で大きな達成へ向けて努力する態度であろう。そこで以下、生徒たちの未来像に関連させて、やる気の問題を深めていくことにしよう。

図16のように生徒たちの4割が大学進学を志しているが、高校までで勤める気持ちの者も29.3%と3割を数える。そして進路と属性とをクロスさせてみると、予想される通り、成績が上位になるにつれて大学、中でも一流大学を目指す者の割合が増加している(表17)。

勉強が得意だと望みの高校へ入れそうだし、そうだとすれば大学へも入学できそうだと思う。そして、そうすれば社会へ出てから

希望が持てるというのであろうか。

それだけに学業成績についての自己評価が、どういう構成になっているのかが気になりとなるが、結果は図17の通りである。中位が35.9%、そして、それ以下が42.9%で、上位と思っている生徒は21.2%にすぎない。

なお、成績の属性別の結果を表18に示した。この表に興味をひく傾向が得られているが、やる気と学業成績との関係について、以下のような傾向が得られている。

	とてもある	ややある	あまりない	ぜんぜんない
中の上層以上	28.5%	30.9%	>21.6%	>15.2%
(上位層)	(11.0%)	(4.0%)	(2.5%)	(1.2%)

やはり、やる気のある生徒の中で成績がよ

い者が多いのがよくわかるデータである。加えて成績のよい生徒たちの自己像が明るいのは、表19に示した通りであるが、学業成績の良し悪しが進学への見通しを含めて、生徒たちのやる気に強い影響を与えているのがわかる。つまり、勉強に自信を持てないと、高校や大学へ進学する段階でやる気が薄れてくるのであろうか。

そこで、もう少し詳しく進学の見通しを調べてみると図18の通りで、半数近くの生徒が、がんばってもむずかしい大学へ入れそうもないと思っているし、しかも、そうした断念する割合は学年が上がるにつれて、中1の40.1%から中2の50.3%、中3の57.0%へと急増していく(図19)。

(図16) 進路

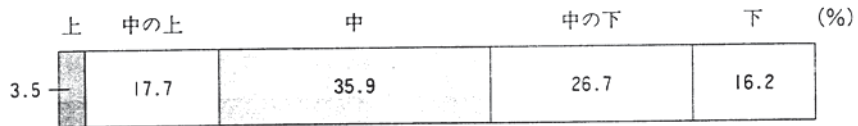
高校までで就職	短期大学や 専門学校	まままあの 4年制大学	一流の4年制大学 (%)
29.3	29.8	32.9	8.0

(表17) 進路×属性

(%)

		高校までで 就職	短期大学や 専門学校	4年制大学	
				まあまあ	一流
学 年	中 1	27.9	30.4	30.4	11.3
	中 2	33.5	27.9	33.0	5.6
	中 3	27.5	30.6	36.0	5.9
性	男 子	33.1	15.4	39.9	11.6
	女 子	25.3	45.1	25.4	4.2
や る 気	とてもある	23.3	28.3	32.1	16.3
	ややある	25.8	28.3	37.7	8.2
	あまりない	26.9	30.7	35.7	6.7
	ぜんぜんない	32.9	32.4	29.9	4.8
成 績	上	7.2	14.5	32.5	45.8
	中の上	10.8	22.7	50.0	16.5
	中	18.8	35.2	40.2	5.8
	中の下	44.5	31.5	21.0	3.0
	下	52.2	26.2	17.8	3.8
全 体		29.3	29.8	32.9	8.0

(図17) 現在の成績



(表18) 成績×属性

(%)

		上	中の上	中	中の下	下	
学 年	中 1	3.9	16.5	37.0	27.8	14.8	
	中 2	2.5	19.3	35.9	28.1	14.2	
	中 3	3.7	17.8	34.5	24.4	19.6	
性	男 子	4.8	18.4	33.8	25.4	17.6	
	女 子	2.0	16.9	38.4	28.1	14.6	
や る 気	とてもある	11.0	17.5	30.8	23.6	17.1	
	ややある	4.0	26.9	34.4	24.4	10.3	
	あまりない	2.5	19.1	41.3	27.3	9.8	
	ぜんぜんない	1.2	14.0	37.4	30.9	16.5	
部 活 動	運動部	積極	3.9	20.7	38.8	24.0	12.6
		消極	2.1	13.1	30.3	30.6	23.9
	文化部	3.9	21.3	35.4	26.5	12.9	
	入っていない	3.5	8.9	38.0	29.2	20.4	
全 体		3.5	17.7	35.9	26.7	16.2	

(表19) どんな中学生×成績

(%)

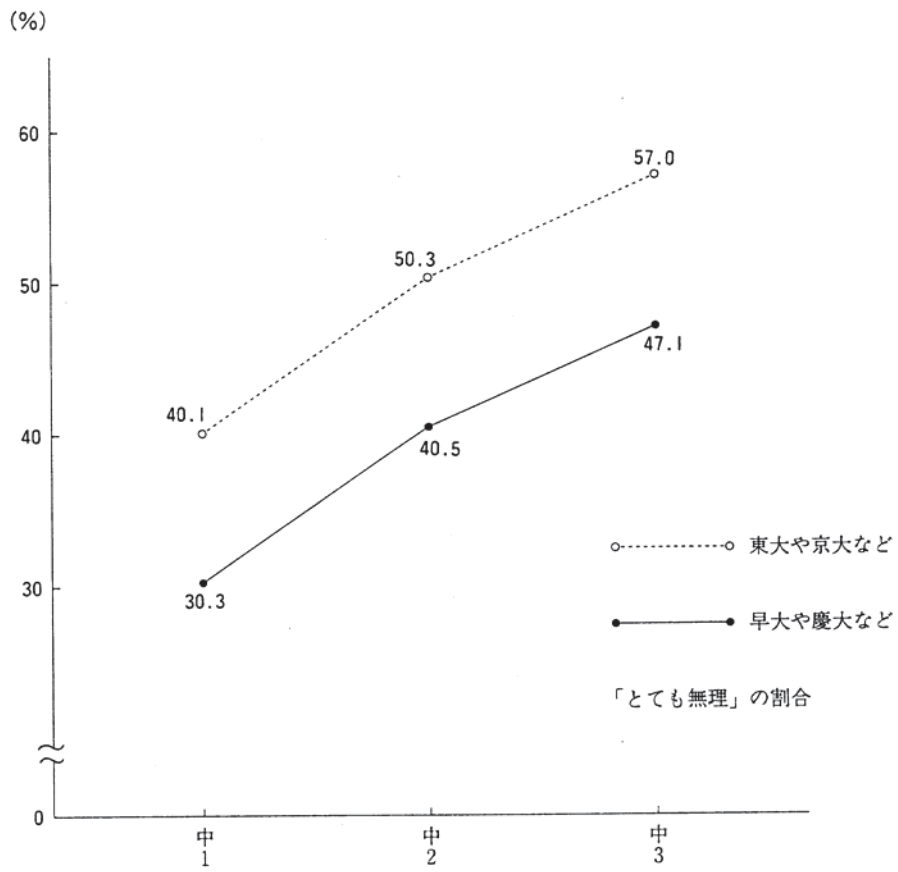
		上	中の上	中	中の下	下
親との関係がうまくいっている	とても	36.0	> 27.3	23.4	18.3	17.2
	かなり	23.3	32.3	25.4	22.0	11.2
	小計	59.3	59.6 >	48.8 >	40.3 >	28.4
部活動がんばっている	とても	43.3	23.8	21.6	16.3	18.8
	かなり	20.0	23.6	20.1	21.2	8.9
	小計	63.3 >	47.4 >	41.7	37.5 >	27.7
友だちから信頼されている	とても	36.0	5.0	4.8	4.4	5.8
	かなり	11.6	13.4	10.2	10.7	4.8
	小計	47.6 >	18.4 >	15.0	15.1 >	10.6
予習や復習をがんばっている	とても	29.1	4.5	3.8	2.0	3.0
	かなり	15.1	10.9	8.3	4.8	2.7
	小計	44.2 >	15.4 >	12.1 >	6.8 >	5.7
先生から信頼されている	とても	33.7	3.6	2.7	3.3	2.2
	かなり	7.0	10.9	5.8	3.5	2.7
	小計	40.7 >	14.5 >	8.5 >	6.8 >	4.9

(図18) がんばったら入学できるか

(%)

1. 東大や京大など	48.2	21.0	15.1	10.3	5.4
2. 早大や慶大など	38.4	21.8	18.8	14.8	6.2
	とても無理	かなり無理	やや無理	なんとかなるかも	たぶん入れると思う

(図19) 入学は無理×学年



2. 今、しあわせか

中学生たちは「やや」を含めて、ほぼ5割が現在しあわせだと答えている(図20)。しかし図21に示すように、残念ながら、しあわせと思う割合は学年が上がるにつれて減少している。

これまでも学年が上がるにつれて自己評価が暗くなる傾向が得られているが、この図21でも、それと同様に中3がしあわせと思う割合は中1より1割ほど低下している。

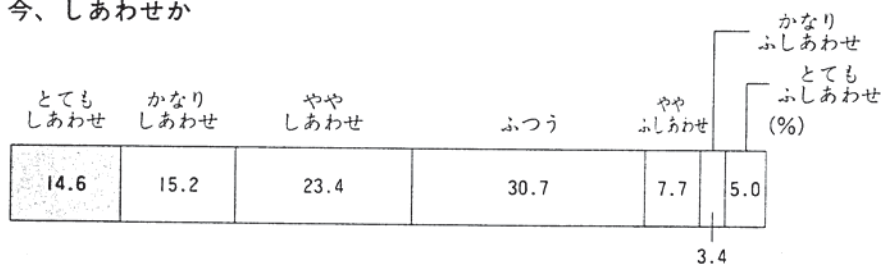
もっとも、しあわせ感と学業成績との関係をクロスさせてみると、表20となる。

上 中の上 中 中の下 下
 41.8% > 33.6% > 32.2% > 27.0% > 23.4%
 (「とても+かなりしあわせ」の割合)
 学業成績がよいと現在の自分に自信を持て

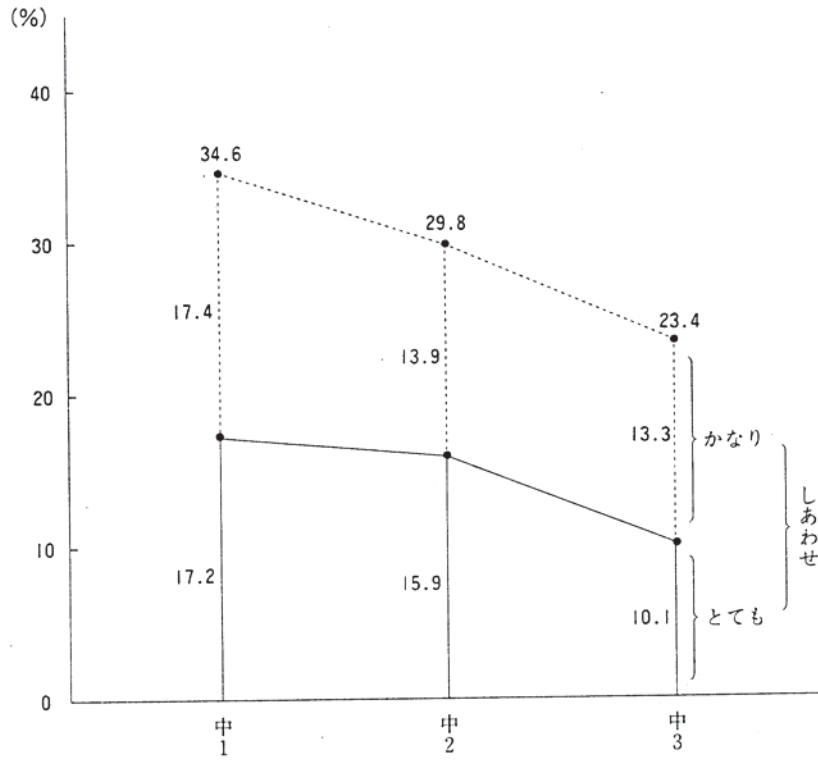
るだけでなく、将来も明るいと思える。そのため、しあわせだと感じられる割合が高くなるのであろう。

なお、部活動としあわせ感との関係は図22に示したが、いずれにせよ積極的に参加している生徒たちがしあわせだと思っている割合が多い。そして、しあわせ感とやる気の関係は図23の通りで、とてもやる気がある者の47.5%がしあわせと答えているのに対し、ぜんぜんやる気がない者の中で、しあわせと答えている者は22.4%にとどまっている。したがって、やる気があつてがんばろうとしている生徒が現在の自分をしあわせと思っているのがわかる。

(図20) 今、しあわせか



(図21) しあわせ×学年

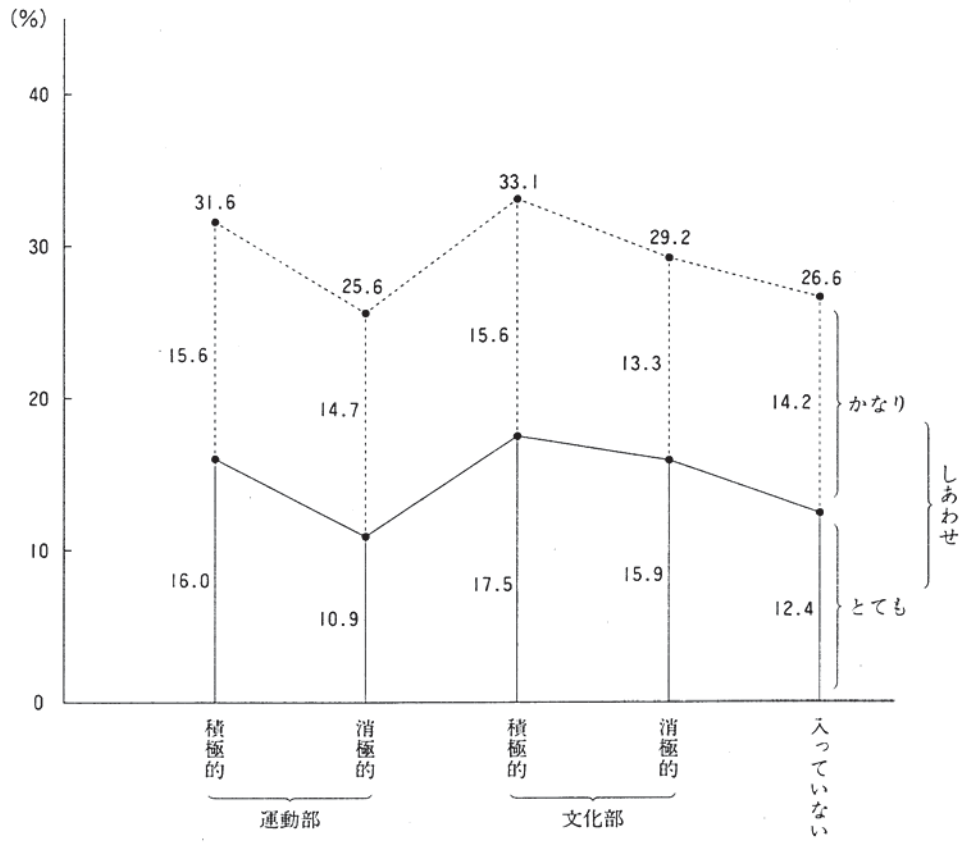


(表20) しあわせ×成績

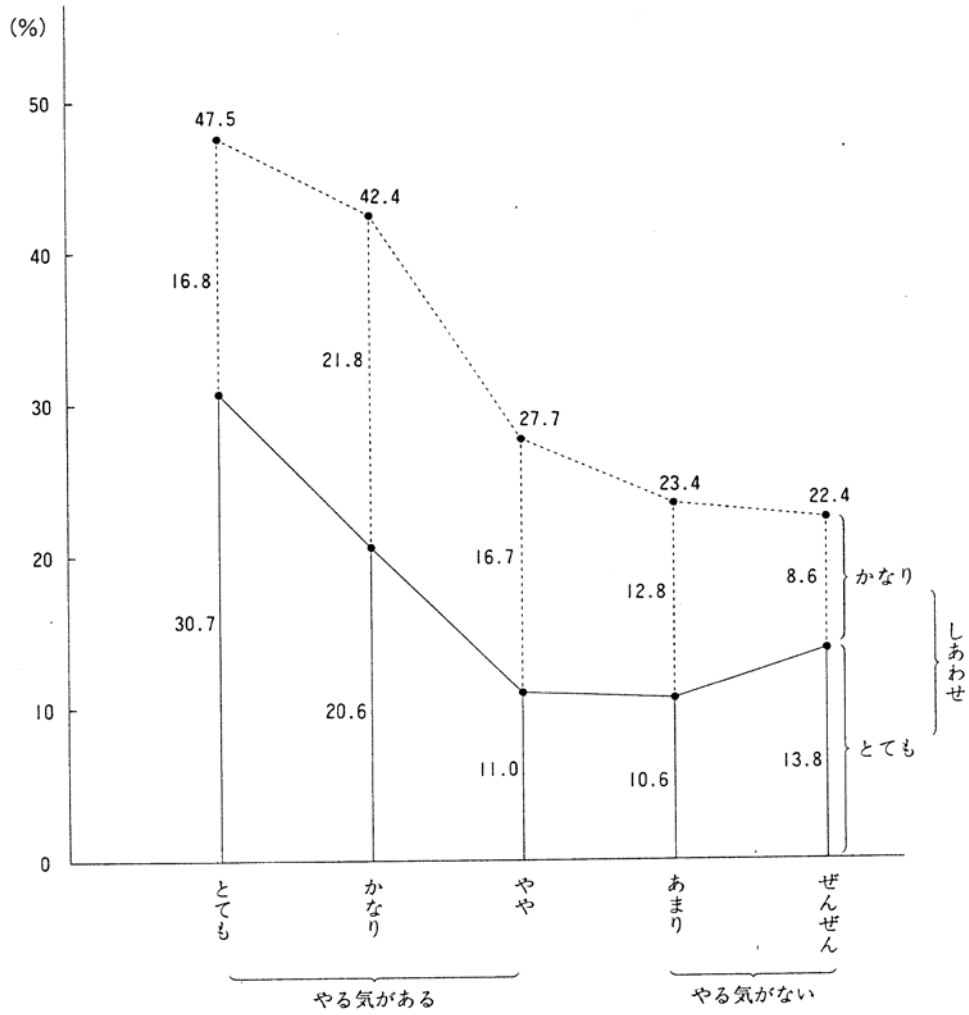
(%)

	しあわせ			やや しあわせ	ふつう～ふしあわせ				小計
	ととも	かなり	小計		ふつう	やや ふしあわせ	かなり ふしあわせ	とても ふしあわせ	
上	27.8	14.0	41.8	19.8	18.6	4.7	2.3	12.8	38.4
中の上	12.8	20.8	33.6	28.6	25.6	8.7	2.1	1.4	37.8
中	16.9	15.3	32.2	26.0	28.1	6.0	3.8	3.9	41.8
中の下	12.5	14.5	27.0	23.0	34.1	9.6	2.7	3.6	50.0
下	12.7	10.7	23.4	13.2	37.8	8.2	5.7	11.7	63.4

(図22) しあわせ×部活動



(図23) しあわせ×やる気



3. どんな仕事につきたいか

それでは生徒たちのしあわせ感は、これから先どうなっていくのか。図24の通り、生徒たちは今と変わらないか、それとも今よりかなりしあわせになりそうだという。

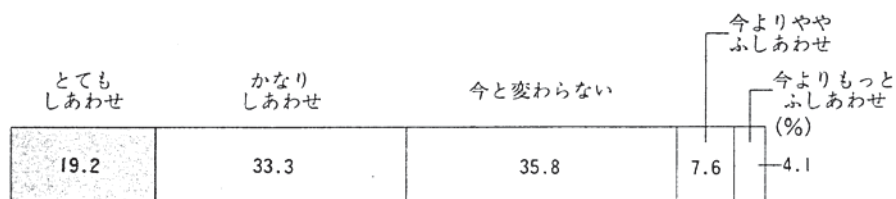
5年後といえば生徒たちは20歳に近く、大学に入る頃であろうが、その頃になったら今と同じか、ややしあわせになるというのであるから、今がそれだけしあわせ感に乏しいのであろうか。

もう少し具体的に、おとなになってからのしあわせ感を、年齢を追った形で尋ねると図

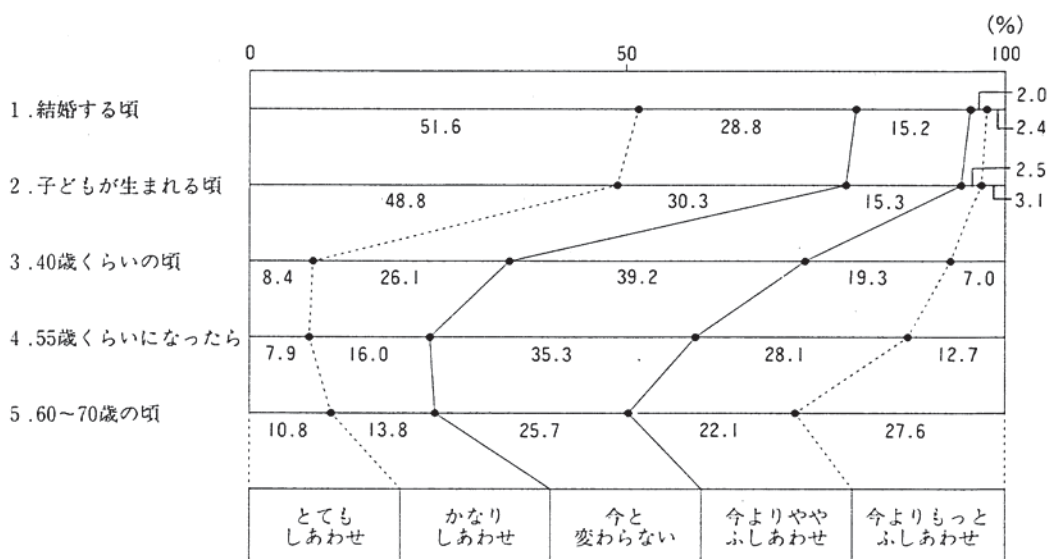
25の通りとなる。結婚する頃や子どもが生まれる頃はしあわせそうだが、それから後は今よりふしあわせになりそうという反応である。なお図26によると、未来のしあわせ感についての気持ちに、学年による開きはあまり認められない。

しあわせな家庭を作れそうというのわかる。それならば生徒たちは、どういう仕事につこうと考えているのか。くわしい数値は表21の通りだが、男女4位までは以下のようになる。

(図24) 5年後はしあわせか



(図25) おとなになってからもしあわせか



男子	1. プロスポーツの選手 (42.4%)
	2. プログラマー (25.4%)
	3. ふつうのサラリーマン (23.9%)
	4. パイロット (22.5%)
女子	1. 保育さん (44.8%)
	2. デザイナー (37.6%)
	3. 通訳 (33.7%)
	4. 花屋 (30.9%)

なお、弁護士や大学教授、医者などのビッグな対象がなりたい仕事に入っていない。したがって上述の結果は、なりたい仕事といっても、なろうと思えばなれそうな仕事の中で、魅力的でなりたい仕事というのかもしれない。そこで、つきたいと思えばつける仕事を尋ねると表22となる。

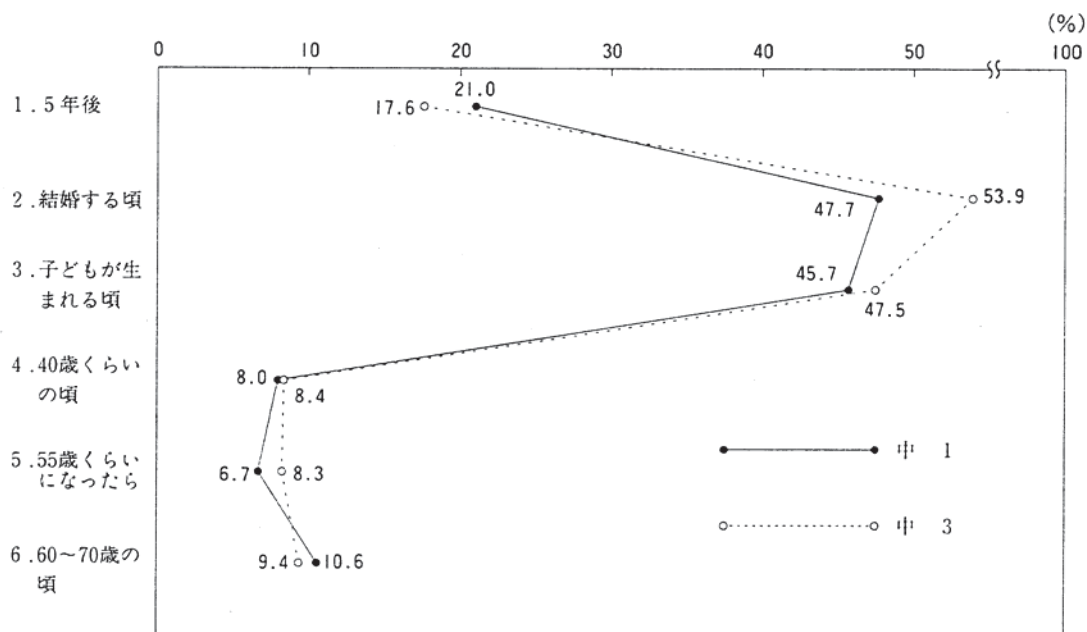
男子	1. ふつうのサラリーマン (36.2%)
	2. スーパーのレジ係 (23.5%)
	3. デパートの店員 (22.2%)
	4. タクシーの運転手 (20.4%)
女子	1. 花屋 (36.3%)
	2. スーパーのレジ係 (35.0%)
	3. 保育さん (33.7%)
	4. デパートの店員 (27.3%)

たしかに、ふつうのサラリーマンや花屋、スーパーのレジ係ならば、つきたいと思えばつける仕事であろう。したがって、やる気というときには、やさしい仕事につくのではなく、なるのがむずかしい仕事にチャレンジするのを意味するのであろう。

そこで「つきたいと思えばつける仕事」ではなく、「なりたい仕事」に注目して、やる気とクロスさせてみると、表23のように医者や弁護士、大学教授などのビッグな目標を目指す割合は、やる気のある生徒に多い。しかし、なりやすい仕事に対しては表中のプロフィールが示すように、やる気のある生徒もない生徒も、なりたいと思う割合はほとんど変わらない結果が得られている。

したがって、すでにふれたように、むずかしいゴールへチャレンジするのがやる気なのかもしれない。なお、なりたい仕事と学年との関係は図27にくわしい。

(図26) おとなになってからもしあわせか×学年



「とてもしあわせ」の割合

(表21) なりたい仕事

(%)

順位	職 業	全 体	性		学 年		
			男 子	女 子	中 1	中 2	中 3
1	プロスポーツの選手	28.2	42.4	13.0	30.3	29.9	23.9
2	保母（保父）さん	23.7	4.0	44.8	25.7	23.4	21.5
3	通訳	23.5	13.9	33.7	24.1	23.1	23.1
4	デザイナー	23.3	9.9	37.6	24.2	23.1	22.2
5	マンガ家	22.4	21.5	23.5	27.0	20.8	17.9
6	テレビタレント	22.2	21.2	23.2	25.5	21.6	18.4
7	コンピュータのプログラマー	19.6	25.4	13.5	19.6	16.7	22.3
8	学校の先生	19.4	14.8	24.3	19.8	20.1	18.4
9	イラストレーター	18.4	10.5	26.9	18.5	17.7	18.9
10	医者	18.1	20.1	16.0	20.2	16.9	16.5
11	小説家	17.5	11.2	24.3	16.3	17.7	19.1
12	花屋	16.9	3.8	30.9	16.3	17.3	17.4
13	看護婦（看護師）	16.4	3.3	30.5	17.3	15.9	15.8
14	カメラマン	15.6	15.1	16.2	14.2	15.4	17.8
15	弁護士	15.6	18.9	12.1	17.0	14.3	15.0
16	パイロット	14.8	22.5	6.7	17.9	12.8	12.6
17	ふつうのサラリーマン	13.5	23.9	2.5	12.7	12.8	15.3
18	デパートの店員	12.5	7.8	17.6	10.6	12.4	15.2
19	テレビの司会者	12.3	14.1	10.4	14.3	10.7	11.2
20	新聞記者	11.9	12.9	10.8	10.2	10.2	15.7
21	大学教授	11.5	16.1	6.6	12.6	9.4	11.9
22	スーパーのレジ係	10.7	5.4	16.4	10.8	10.0	11.2
23	市役所などの公務員	10.6	14.7	6.3	7.2	9.8	15.8
24	建築技師	9.5	14.7	3.9	8.7	7.8	12.0
25	自動車の整備士	8.8	15.6	1.5	7.7	6.5	12.3
26	スーパーの店長	6.0	9.6	2.2	5.3	5.1	7.7
27	市長	5.9	10.6	0.9	6.9	4.9	5.3
28	新幹線の運転手	5.8	9.9	1.5	6.1	4.8	6.4
29	タクシーの運転手	5.5	9.1	1.7	5.3	4.8	6.6
30	自動車のセールスマン	4.5	8.2	0.5	4.6	3.6	5.1

複数回答

(表22) つきたいと思えばつける仕事

(%)

順位	職 業	全 体	性		学 年		
			男 子	女 子	中 1	中 2	中 3
1	スーパーのレジ係	29.1	23.5	35.0	24.5	28.4	35.9
2	花屋	25.6	15.6	36.3	22.1	25.1	30.9
3	デパートの店員	24.7	22.2	27.3	20.0	24.4	31.4
4	ふつうのサラリーマン	24.5	36.2	12.1	22.9	22.4	28.5
5	保母(保父)さん	20.1	7.4	33.7	20.2	18.8	21.3
6	タクシーの運転手	12.8	20.4	4.6	10.9	13.3	15.0
7	学校の先生	12.1	11.2	13.1	12.0	13.0	11.9
8	マンガ家	11.8	13.4	10.1	14.6	9.1	10.6
9	プロスポーツの選手	11.4	18.3	4.0	14.2	12.6	6.9
10	自動車の整備士	11.2	19.4	2.5	10.2	8.8	15.0
11	市役所などの公務員	10.8	13.6	7.7	7.6	8.5	17.2
12	自動車のセールスマン	10.7	15.8	5.1	8.7	10.0	14.1
13	新聞記者	10.3	13.5	6.8	10.5	9.4	11.0
14	カメラマン	10.3	13.3	7.2	9.8	10.2	11.4
15	コンピュータのプログラマー	9.7	13.2	5.9	10.1	8.4	10.6
16	看護婦(看護師)	9.7	4.1	15.6	9.3	9.5	10.5
17	スーパーの店長	9.4	11.6	7.0	8.3	9.2	11.2
18	通訳	9.3	7.6	11.2	9.8	9.1	9.2
19	イラストレーター	8.8	6.3	11.4	9.7	7.9	8.6
20	デザイナー	8.6	6.0	11.3	9.4	7.9	8.3
21	建築技師	8.3	13.5	2.9	7.5	7.2	10.6
22	テレビタレント	7.8	8.4	7.2	9.5	7.2	6.3
23	小説家	7.5	5.7	9.5	7.8	7.1	7.8
24	医者	6.6	8.2	5.0	8.0	6.2	5.4
25	新幹線の運転手	6.3	10.5	1.8	6.7	4.9	7.1
26	弁護士	5.9	8.6	3.0	6.6	6.1	5.2
27	パイロット	5.4	8.3	2.4	7.3	4.2	4.3
28	テレビの司会者	5.4	7.0	3.7	6.3	4.8	5.1
29	大学教授	4.1	6.1	2.0	4.3	3.8	4.5
30	市長	3.7	6.1	1.2	4.5	2.9	3.8

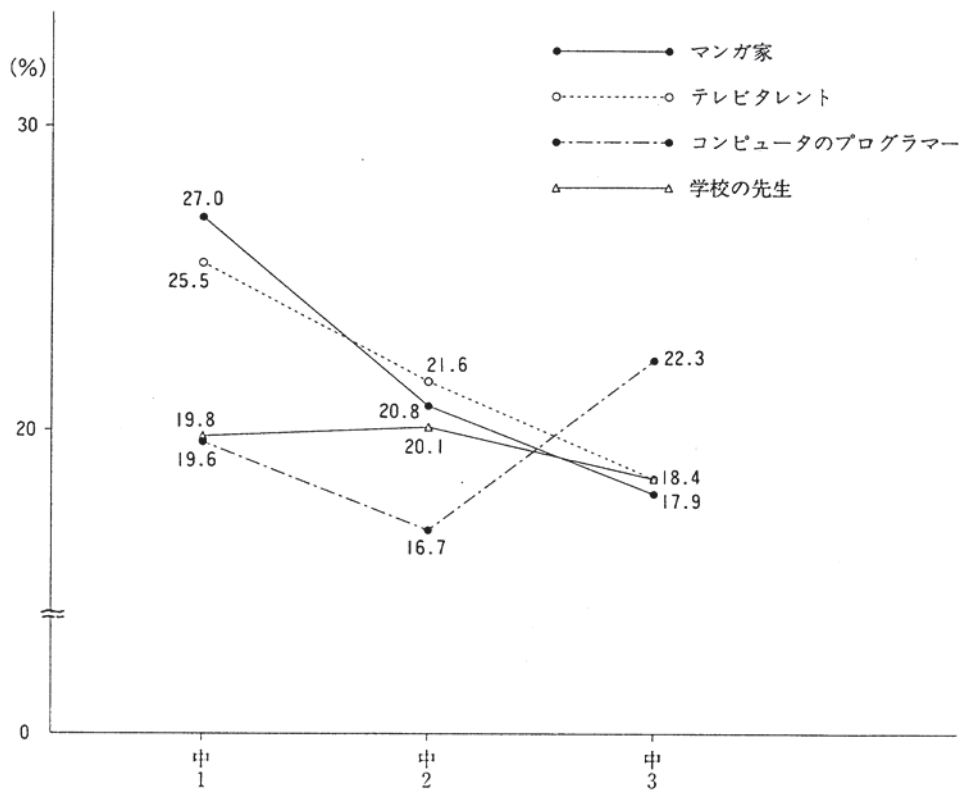
複数回答

(表23) なりたい仕事×やる気

(%)

	全 体	ととも ある	や や あ る	あ ま り な い	ぜ ん ぜ ん な い
医者	18.1	27.2 >	21.5 >	17.2 >	13.0
弁護士	15.6	21.5 >	17.2 >	15.8 >	12.0
大学教授	11.5	16.7 >	11.5	11.6 >	7.7
パイロット	14.8	19.9	13.8	17.8	10.8
学校の先生	19.4	25.2 >	21.8	22.6 >	15.3
ふつうのサラリーマン	13.5	16.3	9.0	13.4	12.7
デパートの店員	12.5	13.0 =	12.6 =	12.9	11.9
スーパーのレジ係	10.7	11.0 =	11.9 =	10.6 =	10.7

(図27) なりたい仕事×学年



4. おとなになってからの生活

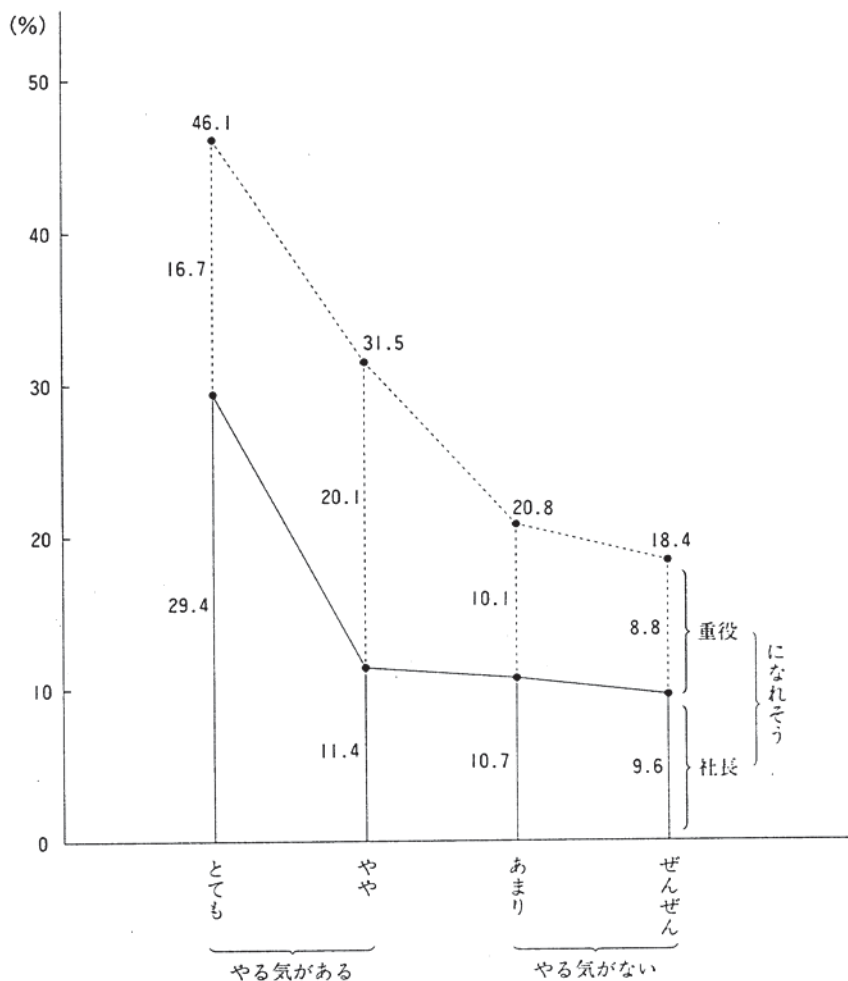
それでは仮に、中学生たちが会社に勤めたら、どの程度まで昇進できていると思っているのか。図28のように部長がトップで24.4%、課長は22.0%となる。

中学生としては無理のない願いのように思われるが、これをやる気とクロスさせると図29の通り、やる気と将来の達成との間にシャープな関係が認められる。つまり、やる気の

(図28) 大会社での定年時の地位

平社員	係長	課長	部長	重役	社長	(%)
14.9	13.6	22.0	24.4	11.5	13.6	

(図29) 重役以上になれる×やる気

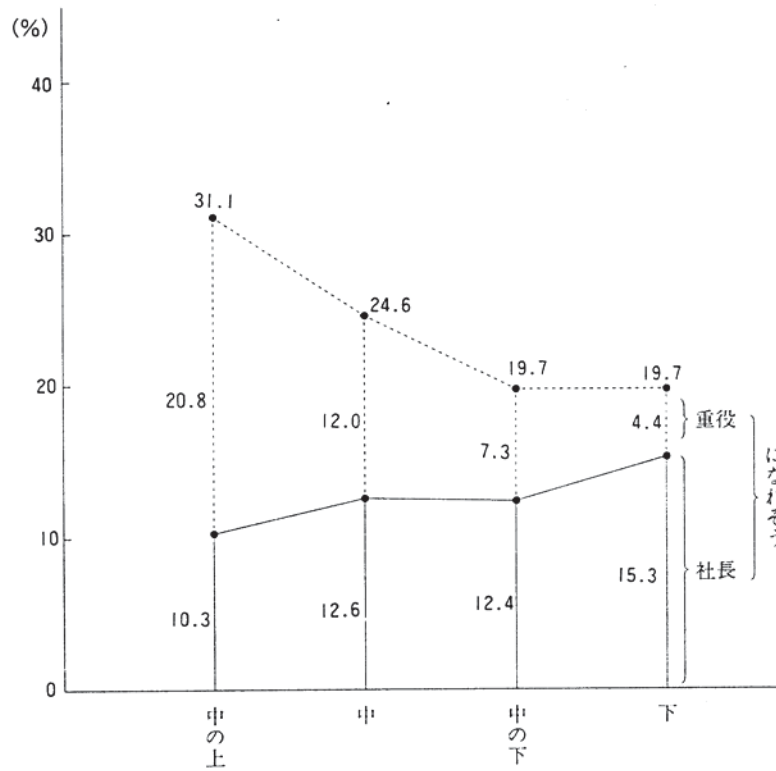


ある生徒は、つきつめていうと重役、社長になれると思ひ、がんばっている生徒となる。念のために、学業成績と達成との関係を図30にまとめてみた。たしかに成績上位層のほうにやる気に富んでいるのは否定できない。しかし、そうした関係は図30よりも図29のほうがシャープに認められる。したがって、や

る気とはビッグなものを目指す態度で、それは成績に裏づけられているが、成績そのものでないよう考えられる。

「どんなおとなになれるそうか」についての見通しを図31に示した。いい父(母)親にはなれそうだが、社会の役に立ったり、自分の才能を生かして働くのはむずかしいだろうと

(図30) 重役以上になれる×成績



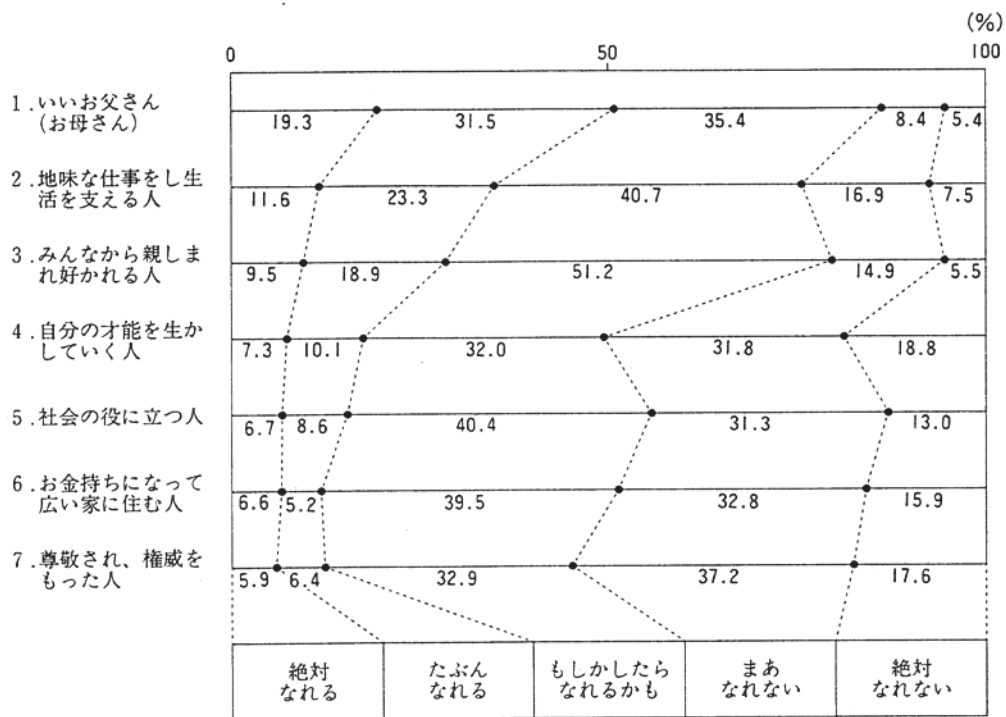
いう。それと同じように「どんな人生を送れそうか」についても、図31と同じような結果が得られている(図32)。

全体として「どんなおとなになれるか」とやる気との関係をまとめると、表24のようなプロフィールとなる。やる気のある生徒はすべての面で、おとなになってから活躍できると思えるのに、やる気に欠ける生徒は未来を

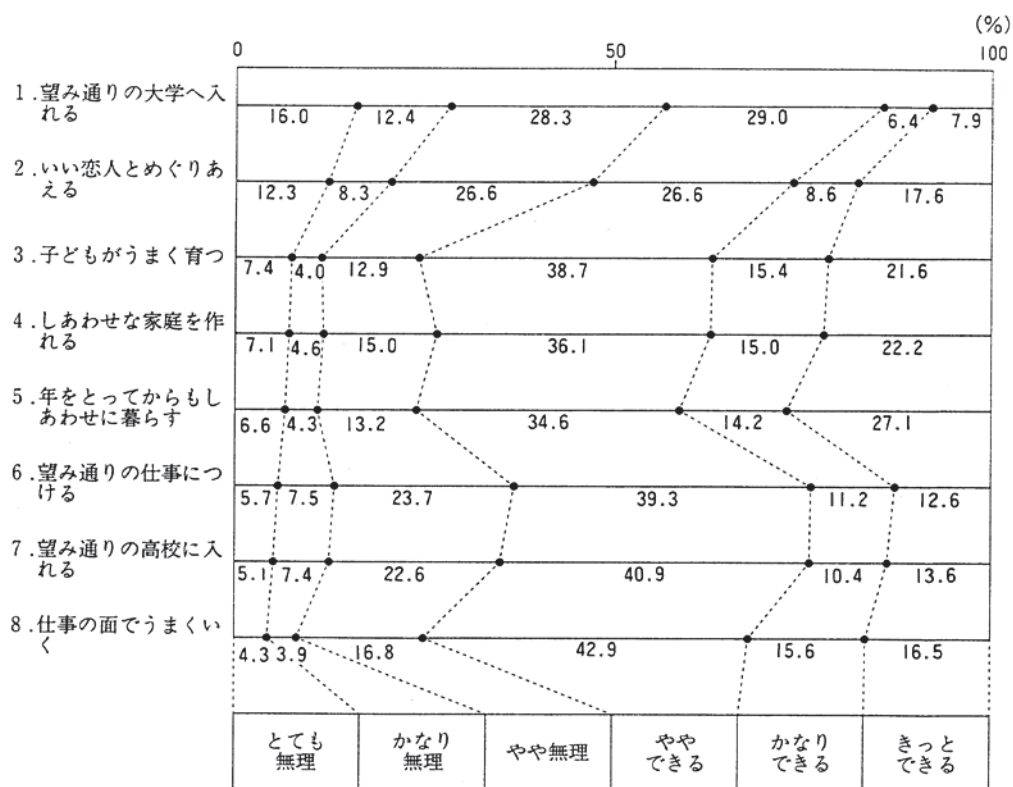
すべての面で暗いものと感じている。

また、図33に示したように、生徒たちは一生懸命に努力をしても、日本を代表するような芸術家や大学教授、そして一流の歌手やプロスポーツ選手になるのはむずかしいだろうという。「がんばってもなれそうもない」と思う割合は7割を超えている。

(図31) どんなおとなになれるか



(図32) どんな人生を送れるか



(表24) どんなおとなになれるか×やる気

	とてもある	ややある	あまりない	ぜんぜんない
いいお父さん (お母さん)	41.5	25.7	15.7	12.6
地味な仕事をし生活を支える人	33.7	15.6	7.6	5.8
みんなから親しまれ好かれる人	29.3	7.9	6.5	5.8
自分の才能を生かしていく人	26.0	5.4	4.9	3.4
社会の役に立つ人	21.5	5.9	3.7	3.4
お金持ちになって広い家に住む人	19.5	4.8	4.2	4.2
尊敬され、権威をもった人	19.6	4.0	3.5	3.0

「絶対なれる」割合

(図33) 一生懸命がんばったらなれるか

